

「令和 7 年度全国学力・学習状況調査」 教育委員会会議資料

- 1 「令和 7 年度全国学力・学習状況調査」の結果の概要 [P 1～]
 - (1) 「令和 7 年度全国学力・学習状況調査」実施状況の概要 [P 1～]
 - (2) 教科に関する結果の概要 [P 1～]
 - (3) 質問調査に関する結果の概要 [P 9～]
 - (4) 今後の対応 [P 10～]

- 2 教科に関する調査結果
 - (1) 【小学校国語】 [P 11～]
 - (2) 【中学校国語】 [P 13～]
 - (3) 【小学校算数】 [P 15～]
 - (4) 【中学校数学】 [P 17～]
 - (5) 【小学校理科】 [P 19～]
 - (6) 【中学校理科】 [P 21～]

- 3 質問調査に関する結果（児童生徒、学校） [P 23～]

- 〈 別冊資料 〉
 - ・問題別調査結果 [国語、算数・数学、理科] [P 資 1～]
 - ・回答結果集計 [児童・生徒質問] [P 資 8～]
 - ・回答結果集計 [学校質問] [P 資 15～]

1 「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果の概要

(1) 「令和7年度全国学力・学習状況調査」実施状況の概要

○実施日 令和7年4月17日（木）※

※中学校理科は4月14日から17日の指定日にオンライン方式により実施

○調査対象 小学校第6学年・中学校第3学年の児童生徒
（義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校含む）

○実施校 公立小学校等750校、公立中学校等368校 合計1,118校

○調査内容 教科に関する調査：国語、算数・数学、理科
質問調査：児童生徒質問調査及び学校質問調査

(2) 教科に関する結果の概要（千葉県を含む）

小学校、中学校ともに、全ての教科において、全国とほぼ同程度である。

ア 教科区分別調査結果（令和6年度・令和7年度の平均正答率）

小学校		令和6年度 平均正答率(%)	令和7年度 平均正答率(%)
国語	千葉県	67	66
	全国	67.7	66.8
算数	千葉県	63	58
	全国	63.4	58.0
理科	千葉県		57
	全国		57.1

中学校		令和6年度 平均正答率(%)	令和7年度 平均正答率(%)
国語	千葉県	57	54
	全国	58.1	54.3
数学	千葉県	51	47
	全国	52.5	48.3
理科	千葉県		※ 49.6
	全国		※ 50.3

※文部科学省からの発表に基づき、県の平均正答率については、小数点以下を四捨五入した値

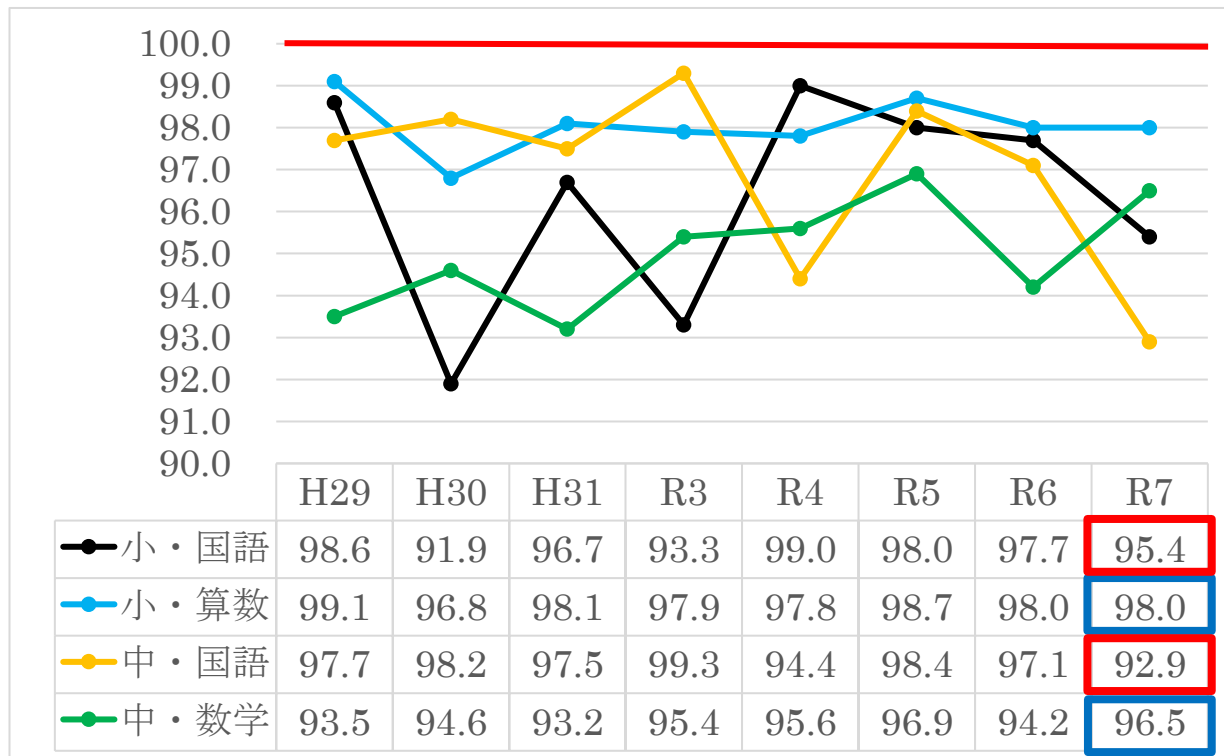
※中学校理科は、IRTスコアによる値（別紙参照）

イ 記述式問題の平均正答率と無解答率（千葉市含む）

記述式問題に関する平均正答率と無解答率に課題はあるものの、小中学校共に改善傾向が見られる。

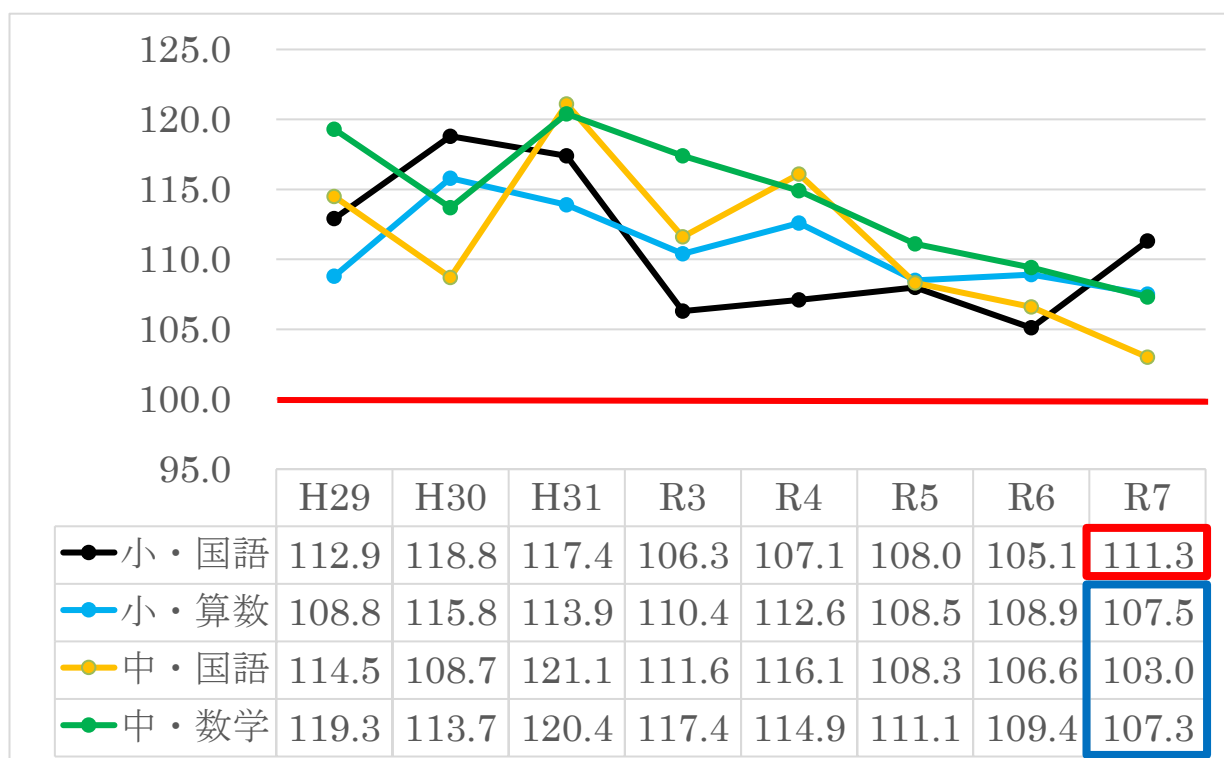
記述式問題の平均正答率

全国平均を 100 とした場合



記述式問題の無解答率

全国平均を 100 とした場合



ウ 正答率からみる本県の課題（教科別）

（ア）＜小学校国語＞ [参照] P11～12、別冊資料 P資1

a 問題形式別 平均正答率

○選択式…64.3% ○短答式…76.7% ○記述式…56.1%

b 課題となる設問 大問2三

○出題の趣旨：目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

○県の正答率：58.2%

○評価の観点：思考・判断・表現

○学習指導要領の内容：書くこと

○問題形式：記述式

〈条件〉

- 【ちらし】の＝部を書き直し、くわしくすること。（一文でなくてもよい）
- 【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから、言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【調べたこと】

〈本を読んで分かったこと〉	〈使ってみて分かったこと〉
<ul style="list-style-type: none"> ○ブックカバー ・何回か折るだけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。 ○ペットボトルカバー ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックカバー ・よごれがつくのを防ぐことができよかった。 ・落としたときに、本がきずつかなかった。 ○ペットボトルカバー ・水てきが荷物につかなくてよかった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。

三山田さんは、【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、好きなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を飾るもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

あついい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

山田さんは、文章の構成をくふうして【ちらし】を書いています。

解答類型と反応率

	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①【ちらし】の＝部を書き直し、詳しくしている。 ②【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。 a〈本を読んで分かったこと〉 b〈使ってみて分かったこと〉 ③60字以上、100字以内で書いている。		
1	条件①、②a、bの両方、③を満たしているもの	58.2	◎
2	条件①、②a、bの両方は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.6	
3	条件①、②aは満たしているが、条件②bは満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	9.2	
4	条件①、②bは満たしているが、条件②aは満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	13.6	
5	条件①は満たしているが、条件②a、bは共に満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	8.3	
99	上記以外の解答	4.5	
0	無解答	5.7	

(イ) <中学校国語> [参照] P13～14、別冊資料 P資2

a 問題形式別 平均正答率

○選択式…64.4% ○短答式…74.7% ○記述式…23.5%

b 課題となる設問 大問1 四

○出題の趣旨：自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

○県の正答率：27.6%

○評価の観点：思考・判断・表現

○学習指導要領の内容：書くこと ○問題形式：記述式

中井さんは【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】を参考に、文書作成ソフトを用いて【ちらし】を作成しています。

【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】

第一 第一中学校				
ホーム	学校紹介	行事予定	学校生活	保護者の方へ
行事のご案内				
更新日 令和7年10月3日				
美術展の開催のお知らせ				
秋の恒例となった「第一中学校 美術展」を開催いたします。各学年の生徒たちは、美術展に向けて作品づくりに励んでおります。ご多忙とは存じますが、生徒たちの力作をご覧いただければ幸いです。ご来校をお待ちしております。				
◆開催日時 令和7年11月15日（土） 10時～16時				
◆開催場所 第一中学校 体育館				

四 今年の美術展では、昨年の美術展に来場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】（更新版②）の の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてかまいません。

【ちらし】（更新版②）

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいの出来です。
今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日（土） 10時～16時
場所 第一中学校 体育館

会場図

出入口

受付

1年生の作品
すいさいが
（水彩画）

2年生の作品
（ポスター）

体験コーナー
（ペン立てづくり）

3年生の作品
ちようこく
（彫刻）

体験できる時間（各回30分間）
①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみなさんへ

条件1 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び（どちらを選んでもかまいません。）、それと結び付く小学生の【感想の一部】をAからUまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。

B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのかが楽しみです。

イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。

ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

【解答欄】

【工夫】

【感想の一部】

A

B

㉖

㉗

㉘

← 選んだ【工夫】と【感想の一部】の記号を塗りつぶしなさい。

第一小学校6年生のみなさんへ



解答類型と反応率

解 答 類 型		反応率(%)	正答
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①【工夫】のいずれか一方と、【感想】のいずれか一つを選んで、選んだ記号を塗り潰している。 ②選んだ【工夫】に結びつく【感想の一部】を選んでいる。 ③選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を適切に取り上げて書いている。 ④接続する語句や指示する語句を用いて、選んだ【工夫】と【感想の一部】とを適切に関係付けて書いている。			
1	条件①、②、③、④を満たして解答しているもの	27.6	㉘
2	条件①、②、③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	7.9	
3	条件①、②、④を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.2	
99	上記以外の解答	62.6	
0	無解答	1.7	

(ウ) <小学校算数> [参照] P15～16、別冊資料 P資3

a 問題形式別 平均正答率

○選択式…67.3% ○短答式…63.4% ○記述式…34.2%

b 課題となる設問 大問3 (3)

○出題の趣旨：数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる。

○県の正答率：32.4% ○評価の観点：知識・技能

○学習指導要領の内容：数と計算 ○問題形式：短答式

次の数直線のア、イの目もりが表す数を
分数で書きましょう。



【参考】大問3 (4)

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

【県の正答率：81.5%】

解答類型と反応率

解答類型（抜粋）		反応率（％）	正答	
	ア	イ		
1	$\frac{1}{3}$	$\frac{5}{3}$ （ $1\frac{2}{3}$ ）	32.4	◎
2		$\frac{5}{6}$	4.0	
3		$\frac{2}{3}$	4.1	
6	$\frac{1}{6}$	$\frac{5}{6}$	4.8	
7	$\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{6}$ 以外の分子1の分数	類型8以外 無解答	13.6	
11	小数		14.3	
99	上記以外		14.5	
0	無解答		8.6	

(エ) <中学校数学> [参照] P17～18、別冊資料 P資4

a 問題形式別 平均正答率

○選択式…54.6% ○短答式…50.5% ○記述式…38.2%

b 課題となる設問 大問5

○出題の趣旨：相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

○県の正答率：37.7% ○評価の観点：知識・技能

○学習指導要領の内容：データの活用 ○問題形式：短答式

下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。
20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

ハンドボール投げの記録

階級 (m)	度数 (人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

解答類型と反応率

解答類型		反応率 (%)	正答
1	0.25	37.7	◎
2	10	19.2	
3	4	6.7	
4	0.75	0.6	
5	30	6.0	
6	5	2.0	
7	40	0.2	
8	22.5	0.8	
99	上記以外の解答	16.2	
0	無解答	10.6	

(才) <小学校理科> [参照] P19～20、別冊資料 P資5

a 問題形式別 平均正答率

○選択式…55.4% ○短答式…69.1% ○記述式…40.3%

b 課題となる設問 大問3(4)

○出題の趣旨：レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題点を見だし、表現することができるかどうかをみる。

○県の正答率：23.6%

○評価の観点：思考・判断・表現

○学習指導要領の内容：「生命」を柱とする領域

○問題形式：記述式

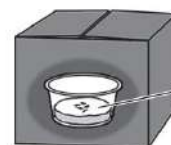
レタスの種子を発芽させようとしています。

てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



解答類型と反応率

	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
	(正答の条件) 以下の①、②の全てを記述している。 ① 〈条件〉から、日光または肥料について、1つ選んで記述しているもの ② レタスの発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述しているもの		
1	①について日光もしくは肥料の条件から1つ選び、②を記述しているもの	22.8	◎
2	①について日光もしくは肥料の条件から1つ選び、②について「調べよう」「やってみよう」「試してみよう」など行為を目的とする趣旨で記述しているもの	0.8	○
3	①について水、空気、温度のいずれかの条件から1つ選び、②を記述しているもの	0.5	
4	①について水、空気、温度のいずれかの条件から1つ選び、②について選び、「調べよう」「やってみよう」「試してみよう」など行為を目的とする趣旨で記述しているもの	0.0	
5	①についてまだ調べていないことを事実として、②について記述しているもの	0.6	
6	①について記述しているが、②に関する記述がないもの	37.8	
99	上記以外の解答	24.2	
0	無解答	13.3	

(力) <中学校理科> [参照] P21～22、別冊資料 P資6

a 課題となる設問 大問1 (5)

○出題の趣旨：塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

○県の正答率：39.6%

○評価の観点：知識・技能

○学習指導要領の内容：「粒子」を柱とする領域

○問題形式：短答式

大文字、小文字を区別して、下線部の元素記号を書きなさい。

水道水について調べる

顕微鏡で観察した結果から、地層からしみ出した水にいろいろな生物がいたので、このままでは安全に飲めないことが分かりました。

地層からしみ出した水などを安全な水道水にするため、ろ過したり、塩素を含む薬品を加えたりしています。

水道水を顕微鏡で観察すると、図のように生物は観察されませんでした。これは、日本の水道水が安全に飲むことのできる理由の1つですね。

地層からしみ出した後
たまった水

水道水

解答欄

図

解答類型と反応率

	解答類型	反応率 (%)	正答
1	C l と解答しているもの	39.6	◎
2	CL、cL、cl と解答しているもの	4.6	
3	Cl ₂ と解答しているもの	1.0	
4	塩素以外の元素記号や化学式で解答しているもの	23.5	
5	化学反応式で解答しているもの	0.0	
99	上記以外の解答	20.2	
0	無解答	11.0	

(3) 質問調査に関する結果の概要

ア 探究的な学び

【学校質問 25】 [参照] P24

「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」

※肯定的回答をした学校

小学校 81.9% (R5) →84.5% (R6) →85.1% (R7) 全国89.3% (R7)

中学校 83.2% (R5) →84.9% (R6) →85.3% (R7) 全国88.2% (R7)

イ 児童生徒の学習時間

【児童生徒質問 17】 [参照] P29

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

※「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童生徒

児童 25.9% (R5) →24.4% (R6) →24.6% (R7) 全国 24.9% (R7)

生徒 36.3% (R5) →33.8% (R6) →32.8% (R7) 全国 30.8% (R7)

※「30分より少ない」「全くしない」と回答した児童生徒

児童 17.5% (R5) →19.8% (R6) →21.4% (R7) 全国 18.6% (R7)

生徒 15.7% (R5) →16.7% (R6) →18.8% (R7) 全国 19.0% (R7)

ウ ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

【学校質問 58】 [参照] P37

「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」

※「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校

小学校 83.5% (R5) →84.8% (R6) →94.1% (R7) 全国96.6% (R7)

中学校 80.5% (R5) →83.8% (R6) →87.5% (R7) 全国94.5% (R7)

エ 調査結果の活用

【学校質問 83】 [参照] P57

「令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

※肯定的回答をした学校

小学校 94.4% (R5) →95.5% (R6) →95.5% (R7) 全国96.5% (R7)

中学校 88.0% (R5) →92.7% (R6) →94.0% (R7) 全国94.0% (R7)

(4) 今後の対応

ア 各学校での調査結果の分析と活用の充実

各学校において、県教育委員会が開発した分析ツール等を用いて、調査結果を分析し、学力向上に向けた授業改善に活用できるようにする。

具体的には、各学校が教科に関する調査や質問調査の結果を多面的・多角的に分析し、自校の特色や課題などを明確にすることで、学力向上に向けた目標設定や具体的な方法を検討していく。

さらに、教育事務所が行う学校訪問において、分析内容や課題解決等の取組について学校に応じた指導・助言を行う。

イ 本県の課題を反映させたリーフレットや実践事例、「全国学力・学習状況調査活用の手引」の作成

今回明らかになった課題を踏まえ、学力向上通信や年度末に発行する学力向上のためのリーフレット、授業実践アイディア例等を作成し、授業改善に向けた取組を後押しする。また、指導改善のために、本県の調査結果の詳細や分析シートの活用方法などを掲載した「全国学力・学習状況調査活用の手引」を作成し、県総合教育センターのホームページに掲載することによって、各校における校内研修や教育課程編成における活用を促進する。

ウ 校内研修の充実

学習指導要領で児童生徒に求められている力を身に付けさせ、「令和の日本型学校教育」の構築を実現するために、総合教育センター作成の「校内研究モデルプラン」をさらに周知することで、学力向上につながる校内研修の充実を後押しする。

また、ICT機器の活用についても、「GIGAスクール通信」や県教育委員会のホームページで周知し、各学校で研修が充実するよう支援する。

エ 学力向上に特に効果をあげている取組の周知

今回調査において特に成果の見られた学校の取組を、家庭や地域の状況も踏まえた上で調査する。その取組を好事例として、学校訪問や学力向上交流会、県教育委員会のホームページ等で周知し、全ての学校が自校の状況に応じて実践することができるように働きかける。

オ 「思考し、表現する力を高める」実践モデルプログラムの活用推進

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善をより推進していくために、県独自のモデルプログラムの活用推進に取り組む。本県の授業改善「キーワード」の「自分の言葉で学習のまとめを書く」を継続しつつ、「自分で取り組む」「広げ深める」の過程にも重きを置き、児童生徒の主体的な学びを促進する。

カ 家庭学習の充実

家庭学習の充実のため「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気学習ガイド」

「家庭学習のすすめ」サイトをさらに周知し、活用促進を図る。

キ 専科教員や外部人材の活用

授業や個別指導の充実を図るため、専科教員や外部人材の活用をさらに推進する。

引き続き、県教育委員会では、調査結果の詳細な分析を行い、具体的な改善策を示していく。

2 教科に関する調査結果

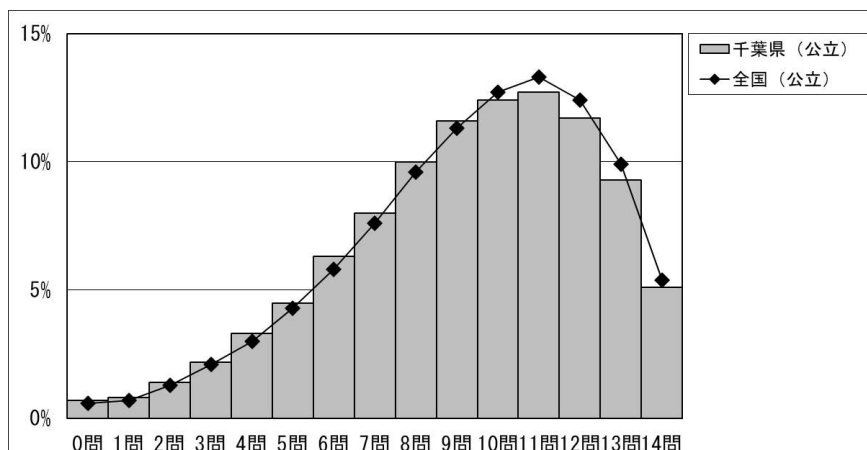
(1) 【小学校国語】

〈分類・区分別集計結果〉

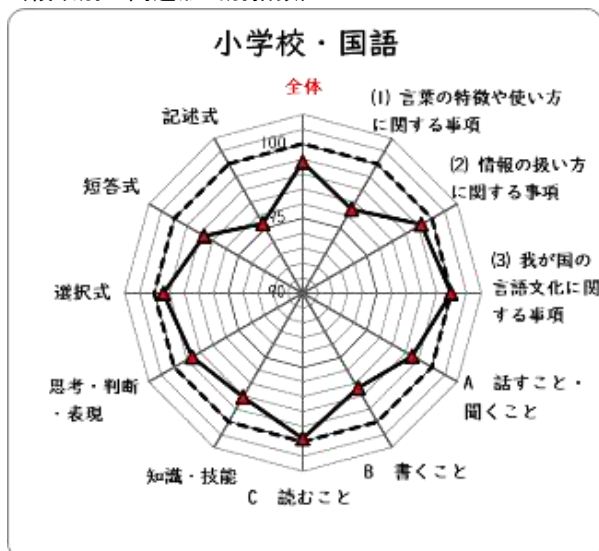
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				千葉県(公立)	全国(公立)
全体			14	66	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	74.2	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	62.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.2	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.3	66.3
		B 書くこと	3	67.7	69.5
		C 読むこと	4	57.4	57.5
評価の観点		知識・技能	4	73.1	74.5
		思考・判断・表現	10	62.9	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	64.3	64.7
		短答式	3	76.7	78.5
		記述式	2	56.1	58.8

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	46,482	9.2 / 14	66	10.0	3.1
全国(公立)	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・国語		
内容・領域	全体	98.8
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	96.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	99.2
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	100.0
	A 話すこと・聞くこと	98.5
	B 書くこと	97.4
観点	C 読むこと	99.8
	知識・技能	98.1
	思考・判断・表現	98.6
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	
	選択式	99.4
	短答式	97.7
	記述式	95.4

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはできている。

【話すこと・聞くこと】（具体的な設問例 大問 1 三(1) 大問 1 三(2)）

●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。

【読むこと】（具体的な設問例 大問 3 三(1) 大問 3 三(2)）

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等				選択式	短答式	記述式	千葉県（公立）	全国（公立）	千葉県（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと								
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア			○	○			51.2	53.3	0.6	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6 イ					○	○			62.6	63.1	0.6	0.5
1三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				5・6 エ			○	○			71.0	71.8	0.6	0.6
1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6 エ			○	○			73.7	73.7	0.7	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる					3・4 イ		○	○			63.6	65.5	0.9	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 エ			○	○			81.3	81.8	0.9	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ			○		○		58.2	61.3	5.7	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部Aを、漢字を使って書き直す (このみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ						○		○		80.5	81.6	8.5	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつ日)		5・6 エ						○		○		67.9	72.1	5.5	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			5・6 ウ				○		○		81.2	81.2	1.3	1.3
3二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる						1・2 ア	○		○		81.8	81.6	2.7	2.9
3二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる				5・6 ア			○		○		51.4	51.3	2.3	2.4
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ			○		○		42.6	40.8	3.2	3.4
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ			○		○		54.0	56.3	17.9	16.2

：特に課題となる設問（基準）

- ・平均正答率 70%未満の設問
- ・全国との差が 5%以上の設問
- ・無解答率が 10%以上の設問

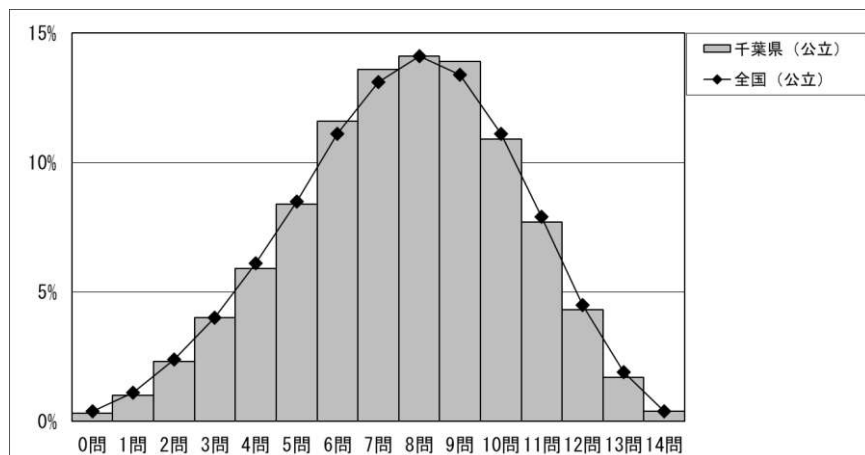
(2) 【中学校国語】

〈分類・区分別集計結果〉

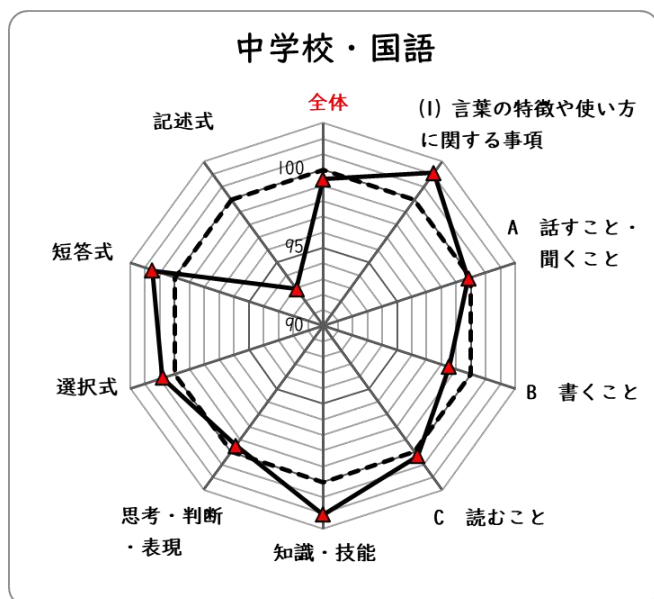
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				千葉県（公立）	全国（公立）
全体			14	54	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	49.1	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	53.1	53.2
		B 書くこと	5	52.0	52.8
		C 読むこと	3	62.5	62.3
評価の観点		知識・技能	2	49.1	48.1
		思考・判断・表現	12	55.0	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	64.4	63.9
		短答式	2	74.7	73.6
		記述式	4	23.5	25.3

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	43,450	7.6 / 14	54	8.0	2.7
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・国語		
内容・領域	全体	99.4
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	102.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項	
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	
	A 話すこと・聞くこと	99.8
	B 書くこと	98.5
観点	C 読むこと	100.3
	知識・技能	102.1
	思考・判断・表現	99.5
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	
	選択式	100.8
	短答式	101.5
	記述式	92.9

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。

【読むこと】（具体的な設問例 大問3二）

●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

【書くこと】（具体的な設問例 大問1四）

●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。

【書くこと】（具体的な設問例 大問4二）

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県（公立）	全国（公立）	千葉県（公立）	全国（公立）
			(1)	(2)	(3)	A	B	C										
			言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○			○			36.1	35.2	0.2	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○			○			82.1	82.5	0.2	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				1イ			○			○			63.0	63.3	0.5	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年のお美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○				○		27.6	31.0	1.7	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○			○			38.6	38.1	0.4	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1ウ			○			○			78.5	77.9	0.3	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2イ			○			○			73.7	73.4	0.6	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○				○		21.5	23.2	4.0	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				1エ			○			○			80.6	80.0	0.5	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる				2ア			○				○		90.0	89.9	3.7	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す言葉について理解しているかどうかをみる	1ウ						○			○			62.1	61.0	0.8	0.8
3四	「一 榎木の笑」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				1エ			○				○		16.9	17.1	29.2	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○				○		59.3	57.3	32.2	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○				○		28.0	30.1	19.5	19.1

※ : 特に課題となる設問（準）

- ・ 平均正答率 70%未満の設問
- ・ 全国との差が 5 %以上の設問
- ・ 無解答率が 10%以上の設問

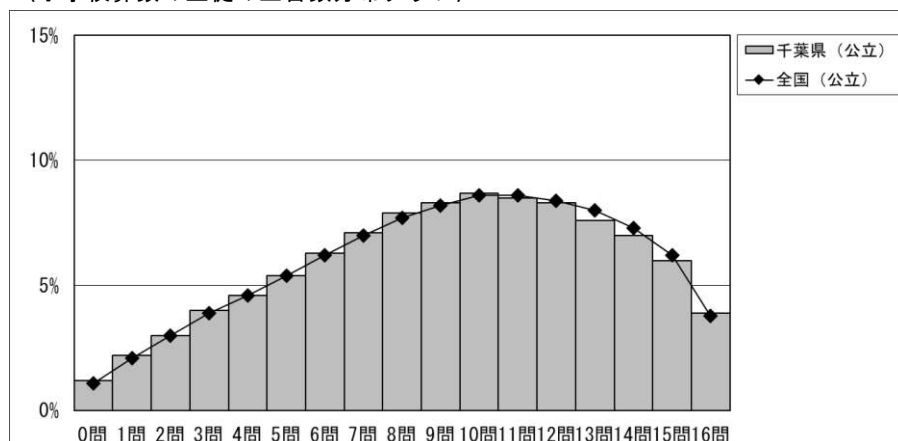
(3) 【小学校算数】

〈分類・区分別集計結果〉

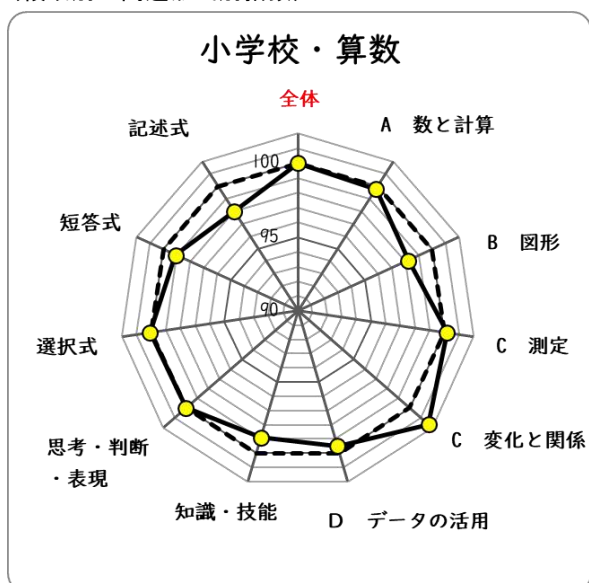
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体		16	58	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	62.2	62.3
	B 図形	4	55.2	56.2
	C 測定	2	54.9	54.8
	C 変化と関係	3	58.5	57.5
	D データの活用	5	62.3	62.6
評価の観点	知識・技能	9	64.8	65.5
	思考・判断・表現	7	48.3	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	67.3	67.2
	短答式	6	63.4	64.0
	記述式	4	34.2	34.9

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	46,501	9.2 / 16	58	10.0	4.1
全国(公立)	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

〈小学校算数の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・算数		
内容・領域	全体	100.0
	A 数と計算	99.8
	B 図形	98.2
	C 測定	100.2
	C 変化と関係	101.7
観点	知識・技能	98.9
	思考・判断・表現	100.0
	主体的に学習に取り組む態度	
問題形式	選択式	100.1
	短答式	99.1
	記述式	98.0

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。

【データの活用】（具体的な設問例 大問 1(1)）

●異分母分数の加法の計算をすることができているが、数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることについては課題がある。

【数と計算】（具体的な設問例 大問 3(4)(3)）

●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできているが、「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある

【変化と関係】（具体的な設問例 大問 4(1)(4)）

●棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。

【データの活用】（具体的な設問例 大問 1(1)）

●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。【データの活用】（具体的な設問例 大問 1(2)）

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県（公立）	全国（公立）	千葉県（公立）	全国（公立）
1 (1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2020年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○			78.6	78.7	0.4	0.4
1 (2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(イ)	○				○		29.7	31.0	0.9	0.9
1 (3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○			○			70.1	71.6	3.8	3.5
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(イ)					○				○		74.9	74.5	2.8	2.6
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	4(1) ア(イ)					○				○		56.4	58.3	1.3	1.2
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	4(1) ア(イ)					○			○			49.5	50.2	0.8	0.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	4(5) ア(ア)					○			○			79.3	79.3	1.0	1.0
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(3) ア(ア) ※					○				○		35.5	37.0	2.7	2.7
3 (1)	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ア)					○				○		74.5	74.1	2.9	2.8
3 (2)	3/4 + 2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) ア(ア) イ(イ)					○				○		22.6	23.0	17.9	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) イ(イ)					○				○		32.4	35.0	8.6	7.8
3 (4)	1/2 + 1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) ア(ア)					○				○		81.5	81.3	4.3	4.1
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○			○			84.1	82.8	2.3	2.6
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○				○		49.2	48.7	2.9	3.4
4 (3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○		60.6	60.9	3.5	4.2
4 (4)	10%増量したためかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) イ(ア)		○				○		42.2	40.9	3.4	4.1

※ : 特に課題となる設問（基準）

・平均正答率70%未満の設問

・全国との差が5%以上の設問

・無解答率が10%以上の設問

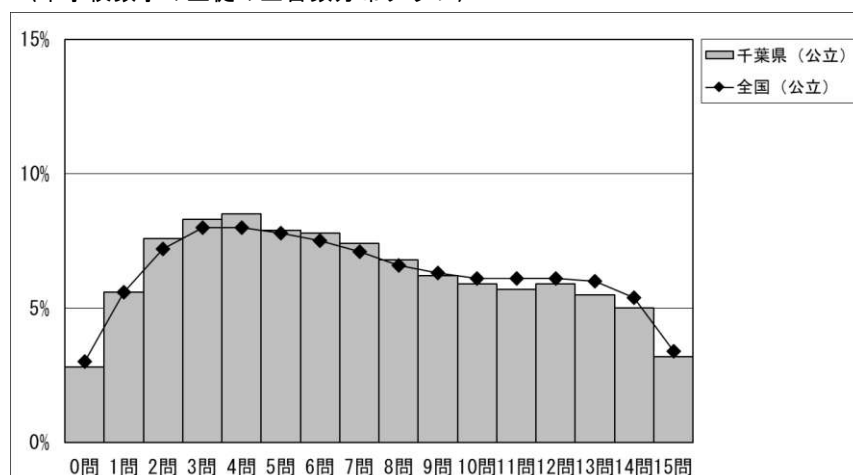
(4) 【中学校数学】

〈分類・区別集計結果〉

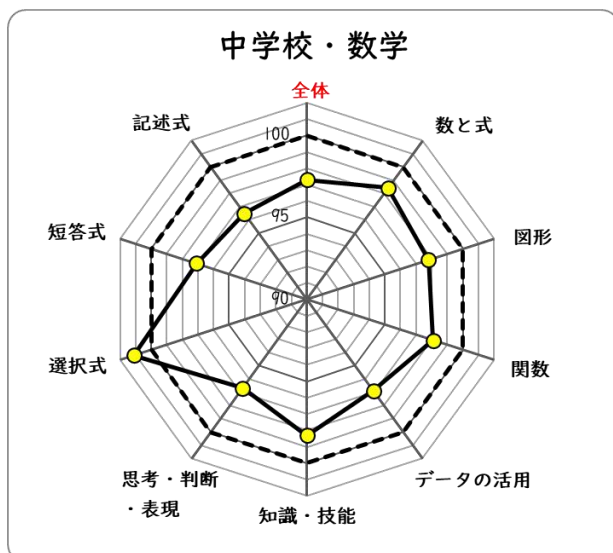
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体		15	47	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	42.8	43.5
	B 図形	4	45.5	46.5
	C 関数	3	47.3	48.2
	D データの活用	3	56.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	53.5	54.4
	思考・判断・表現	6	37.8	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	54.6	54.0
	短答式	7	50.5	52.0
	記述式	5	38.2	39.6

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	43,464	7.1 / 15	47	7.0	4.2
全国(公立)	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・数学		
内容・領域	全体	97.3
	A 数と式	98.4
	B 図形	97.8
	C 関数	98.1
	D データの活用	96.9
観点	知識・技能	98.3
	思考・判断・表現	96.7
	主体的に学習に取り組む態度	
問題形式	選択式	101.1
	短答式	97.1
	記述式	96.5

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）のポイント〉

- 必ず起こる事柄の確率については理解しているが、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては課題がある。

【データの活用】（具体的な設問例 大問7(1)、(2)）

- 数学の用語の意味の理解に課題がある。

【数と式、関数、データの活用】（具体的な設問例 大問1、4、5）

- 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある

【図形】（具体的な設問例 大問9(2)）

- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

【図形】（具体的な設問例 大問9(3)）

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県（公立）	全国（公立）	千葉県（公立）	全国（公立）
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1 (1) ア (7)					○		○			32.7	31.8	0.8	0.7
2	果汁 4 0 % の飲み物 a m L に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1 (2) ア (2)					○			○		49.7	51.9	8.3	7.3
3	△ A B C において、∠ A の大きさが 5 0 ° のときの頂点 A における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		2 (1) ア (4)				○			○		55.8	58.1	1.9	2.0
4	一次関数 $y = 6 x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = a x + b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる			2 (1) ア (7)			○			○		33.4	34.7	8.4	8.0
5	ある学級の生徒 4 0 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、2 0 m 以上 2 5 m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				1 (1) ア (7)		○			○		37.7	42.5	10.6	9.4
6 (1)	連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2 (1) ア (2) イ (4)					○			○		63.5	62.8	4.4	4.6
6 (2)	$3 n$ と $3 n + 3$ の和を $2 (3 n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる		2 (1) イ (4)					○			○	24.9	25.7	26.8	24.9
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる		2 (1) イ (4)					○			○	43.4	45.2	21.9	20.2
7 (1)	A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				2 (2) ア (7)		○			○		78.0	77.4	2.9	3.2
7 (2)	A の手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、B の手元のカードが「グー」、「チョキ」の 2 枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2 (2) イ (4)			○			○	54.7	55.9	2.3	2.2
8 (1)	A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる			1 (1) ア (2)			○			○		72.3	71.9	2.4	2.3
8 (2)	A 駅から 6 0 . 0 k m 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1 (1) イ (4)				○			○	36.2	38.0	36.8	35.0
9 (1)	四角形 A E C F が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる		2 (2) ア (4)					○		○		58.9	58.5	1.2	1.1
9 (2)	平行四辺形 A B C D の辺 C B 、 A D を延長した直線上に B E = D F となる点 E 、 F を取り、辺 A B と線分 F C の交点を G 、辺 D C と線分 A E の交点を H としたとき、四角形 A G C H が平行四辺形になることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる		2 (2) イ (7)					○			○	35.8	36.3	8.2	7.2
9 (3)	平行四辺形 A B C D の辺 B C 、 D A を延長した直線上に B E = D F となる点 E 、 F を取り、辺 A B と線分 F C の交点を G 、辺 D C と線分 A E の交点を H としたとき、四角形 A G C H が平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる		2 (2) イ (4)					○			○	31.6	33.2	34.3	31.5

※ :特に課題となる設問（基準）

- ・平均正答率70%未満の設問
- ・全国との差が5%以上の設問
- ・無解答率が10%以上の設問

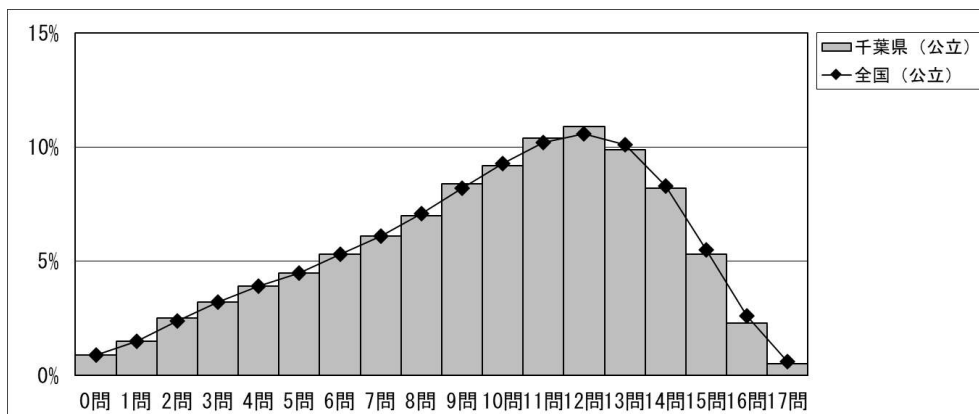
(5) 【小学校理科】

〈分類・区分別集計結果〉

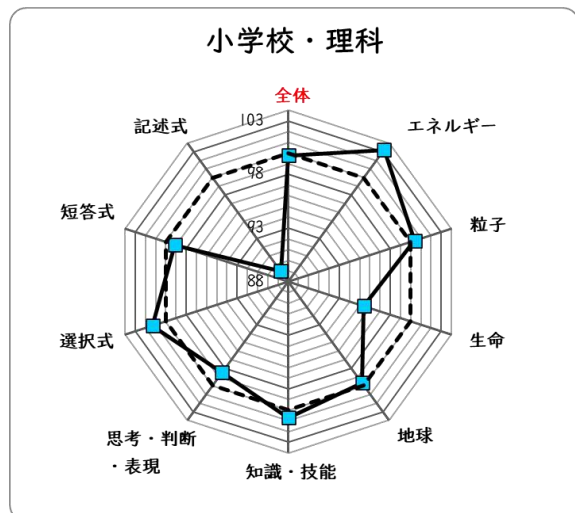
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				千葉県（公立）	全国（公立）
全体			17	57	57.1
学習指導 要領の区 分・領域	A区 分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.2	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	51.6	51.4
	B区 分	「生命」を柱とする領域	4	49.6	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.5	66.7
評価の観点		知識・技能	8	55.7	55.3
		思考・判断・表現	9	57.8	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	11	55.4	54.7
		短答式	4	69.1	69.7
		記述式	2	40.3	45.2

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	46,552	9.7 / 17	57	10.0	3.8
全国(公立)	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

〈小学校理科の児童の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・理科		
内容・領域	全体	99.8
	エネルギー	103.2
	粒子	100.4
	生命	95.4
	地球	99.7
観点	知識・技能	100.7
	思考・判断・表現	98.5
	主体的に学習に取り組む態度	
問題形式	選択式	101.3
	短答式	99.1
	記述式	89.2

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができている。

【地球】（具体的な設問例 大問 1(3)）

●電気が通る回路のつくり方について理解し、表現することに課題がある。

【エネルギー】（具体的な設問例 大問 2(2)）

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		
			A区分	B区分				千葉県(公立)	全国(公立)	千葉県(公立)	全国(公立)	
				「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域							「地球」を柱とする領域
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※	○	○	79.5	79.5	2.8	2.5	
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※	○	○	57.1	60.5	10.0	8.5	
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※	○	○	78.0	77.8	0.9	0.9	
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3A (5)ア (イ)※	3A (4)ア (7)※		○	○	11.0	10.6	0.6	0.6	
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの刻を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3A (5)ア (7)※ (イ)※			○	○	43.2	42.9	0.6	0.6	
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A (3)ア (イ)※			○	○	79.6	78.0	3.1	2.7	
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4A (3)ア (7)※			○	○	59.1	55.1	0.8	0.8	
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる		5B (1)ア (2)※		○	○	68.2	70.7	1.6	1.5	
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる		5B (1)ア		○	○	43.7	45.6	0.7	0.8	
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる		5B (1)ア (イ)※		○	○	63.1	62.0	1.7	1.7	
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる		5B (1)イ		○	○	23.6	29.9	13.3	11.4	
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4A (2)ア (イ)※			○	○	49.1	50.6	7.1	6.1	
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A (2)ア (イ)※	4B (4)ア (イ)※		○	○	65.2	64.2	1.1	1.3	
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A (2)ア (イ)※	4B (4)ア (イ)※		○	○	57.3	57.5	1.4	1.5	
4 (3) カ	海にある水がとげることについて、水が氷になる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷になる温度を根拠に、オホーツク海の水の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4A (2)ア (イ)※			○	○	60.2	59.8	2.2	2.3	
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したものと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる		4B (3)ア (7)※		○	○	61.7	60.9	2.4	2.4	
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4A (2)ア (7)※			○	○	66.6	65.6	2.4	2.5	

※ :特に課題となる設問（基準）

- ・平均正答率 70%未満の設問
- ・全国との差が 5%以上の設問
- ・無解答率が 10%以上の設問

(6) 【中学校理科】

〈【1】 平均正答数集計値〉

	生徒数	平均 正答数	標準 偏差
千葉県（公立）	42,895	2.8 / 6	1.4
全国（公立）	864,634	2.9 / 6	1.4

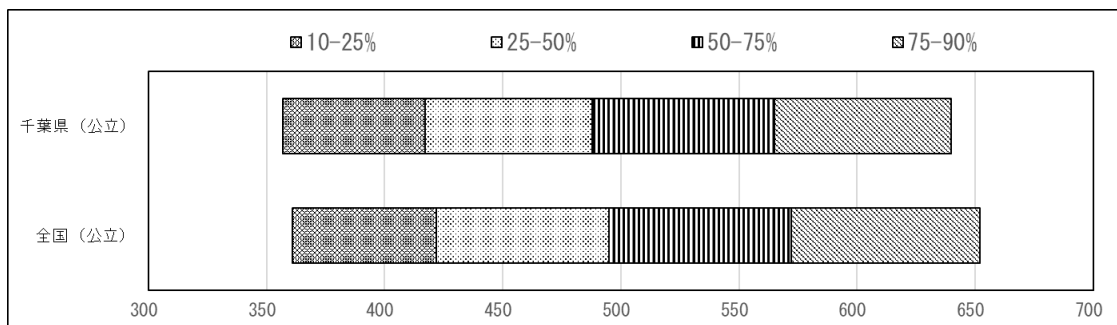
〈【2】～【9】 平均正答数集計値〉

	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
千葉県（公立）	2.0 / 4	1.8 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4
全国（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

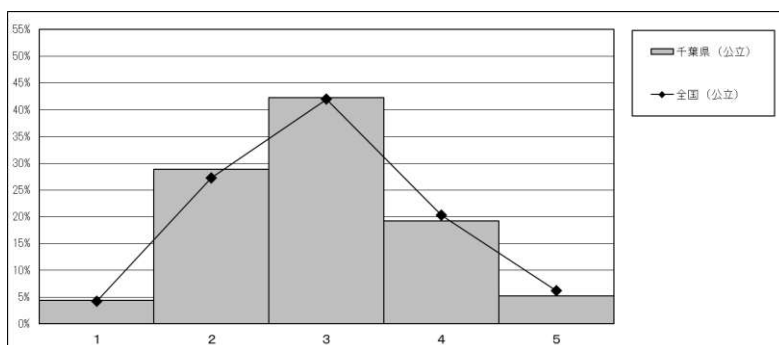
〈IRT スコア集計値〉

	平均 IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
千葉県（公立）	496	120.1	357	417	488	565	640
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

〈IRT スコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）〉



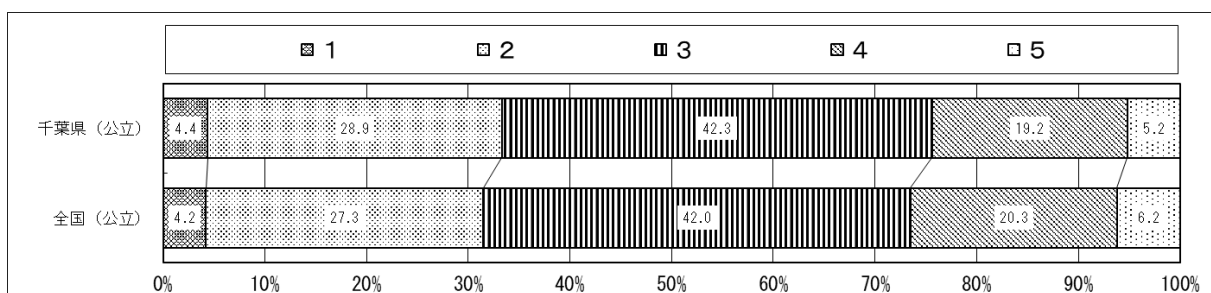
〈IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）〉



〈IRT バンド集計値〉

IRT バンド	生徒数	割合(%)	
	千葉県 （公立）	千葉県 （公立）	全国 （公立）
5	2,223	5.2	6.2
4	8,217	19.2	20.3
3	18,147	42.3	42.0
2	12,413	28.9	27.3
1	1,895	4.4	4.2

〈IRT バンド分布比較〉



〈調査結果（全国）の概要〉

○探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現することができている。

【課題の解決】（具体的な設問例 大問1(6)）

●見いだした問題を解決するための適切な課題を設定することに課題が見られる。

【課題の把握（発見）】（具体的な設問例 大問1(2)）

●火災における避難行動について、気体の性質に関する知識が概念として身に付いていると考えられる。【粒子】（具体的な設問例 大問4(2)）

●回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を身に付けることに課題がある。

【エネルギー】（具体的な設問例 大問1(1)）

●生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題がある。

【生命】（具体的な設問例 大問1(4)）

●実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られる。


【粒子】（具体的な設問例 大問5(2)）

●予想が反映された振り返りを行うために、探究の過程の見通しについて分析して解釈することに課題がある。【地球】（具体的な設問例 大問9(1)）

●実験の様子と、密度に関する知識を関連付けて、気体の密度の大小関係を分析して解釈することに課題がある。【粒子】（具体的な設問例 大問4(1)）

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		問題の難易度	対象生徒数	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現		千葉県（公立）	全国（公立）	千葉県（公立）	全国（公立）		千葉県（公立）	全国（公立）
1（1）	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) (9)				○		○	52.3	51.9	0.2	0.2	5	42,895	864,634
1（2）	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	(2) (7) (9)				○		○	44.2	46.2	9.5	8.0	5	42,895	864,634
1（3）	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	地層のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) (9)	○		○	36.8	36.2	0.6	0.6	5	42,895	864,634
1（4）	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(3) (7) (9)		○		○	30.6	29.7	0.1	0.2	5	42,895	864,634
1（5）	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (9)				○		○	39.6	44.9	11.0	8.5	4	42,895	864,634
1（6）	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなただけの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) (9)				○		○	76.1	79.4	11.8	9.9	3	42,895	864,634
2（1）	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) (9)				○		○	11.2	14.0	2.4	1.9	5	9,979	203,127
2（2）	「Webページの情報をだけ信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストロウの太さや音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場面で、収集する資料情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) (9)				○		○	94.1	94.6	0.1	0.1	2	9,979	203,127
3（1）	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) (9)				○		○	36.1	34.9	0.2	0.2	5	12,350	220,884
3（2）	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) (9)				○		○	85.7	85.2	0.1	0.1	2	12,350	220,884
4（1）	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大きさを判断し、小さい順に並べる	ガス管継ぎの設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる			(2) (7) (9)		○		○	48.8	50.4	0.2	0.1	4	9,688	220,314
4（2）	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) (9)				○		○	92.2	92.8	0.1	0.1	2	9,688	220,314
5（1）	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) (9)				○		○	93.5	93.0	0.1	0.1	1	10,878	220,309
5（2）	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているかを判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (7) (9)				○		○	31.2	35.6	6.3	4.6	4	10,878	220,309
6（1）	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) (9)				○		○	66.0	65.9	0.2	0.2	4	12,350	220,884
6（2）	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを選択し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (7) (9)				○		○	42.1	41.9	0.1	0.1	4	12,350	220,884
7（1）	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (7) (9)				○		○	36.1	34.8	0.1	0.2	5	9,688	220,314
7（2）	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (9)	(3) (7) (9)			○		○	50.1	51.6	0.2	0.2	5	9,688	220,314
8（1）	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変わりや地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる			(2) (7) (9)		○		○	39.0	42.2	4.0	3.2	4	10,878	220,309
8（2）	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなものであればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がり方を検討して表現できるかどうかをみる			(2) (7) (9)		○		○	16.0	18.1	1.4	1.1	5	10,878	220,309
9（1）	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの「振り返り」を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる			(4) (7) (9)		○		○	30.5	31.8	0.3	0.3	5	9,979	203,127
9（2）	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(4) (7) (9)		○		○	61.6	58.1	0.3	0.3	4	9,979	203,127

※  :特に課題となる設問（基準）

- ・平均正答率 70%未満の設問
- ・全国との差が 5%以上の設問
- ・無解答率が 10%以上の設問

質問調査に関する結果（児童生徒、学校）

※ 学校質問・児童生徒質問の番号に〔 〕がついているものは、中学校・生徒への質問番号であり、〔 〕がついていないものは小学校・児童への質問番号である。

※ 回答結果と正答率の関連を表すグラフについて、「その他」、「無回答」に対応するグラフは表示していない。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で0.6ポイント、中学校で0.4ポイント高い。

【学校質問25〔25〕】

- 「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問32〔32〕】

- 「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問35〔35〕】

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で4.8ポイント、中学校で0.6ポイント高い。

【学校質問26〔26〕】

- 「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問31〔31〕】

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」の質問に対し、「よく行った」と回答した割合は、昨年度と比較すると小学校で1.6ポイント、中学校で0.7ポイント高い。

【学校質問32〔32〕】

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で1.9ポイント高く、中学校で2.8ポイント低い。

【学校質問33〔33〕】

- 「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問33〔33〕】

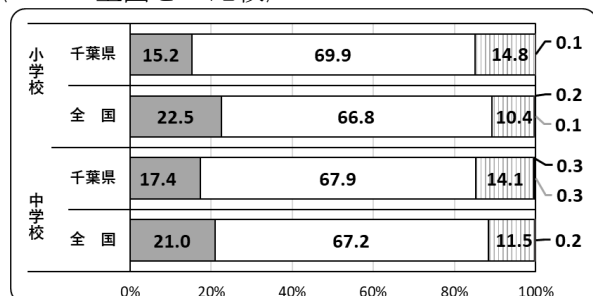
<授業改善のポイント>

- 「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組んでいる児童生徒・学校ほど各教科の平均正答率が高い傾向にある（相関関係がある）ことから、『実践モデルプログラム「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」』を活用した学習過程を実践する。特に、振り返りでは、「自分の言葉でまとめる」活動を大切にする。
- 同じ質問内容で「児童生徒」と「学校」の回答にギャップがある場合が多い。自校の結果を分析し、全職員で共通理解を図り、改善に向けた取組を行う。

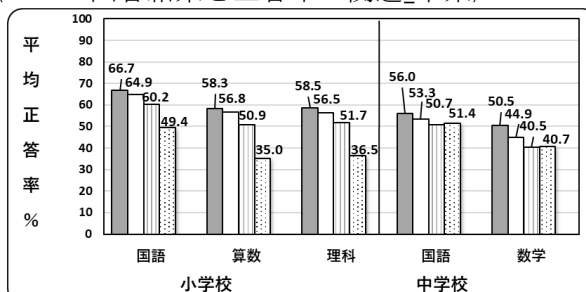
【学校質問 2 5〔2 5〕】調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



〈R 7 全国との比較〉



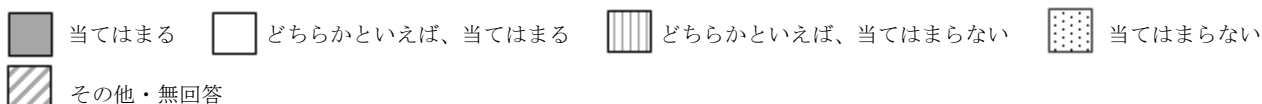
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



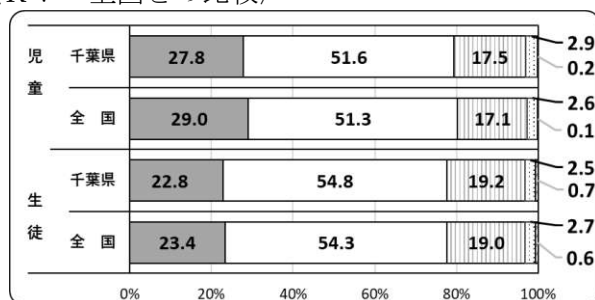
〈経年変化_本県〉



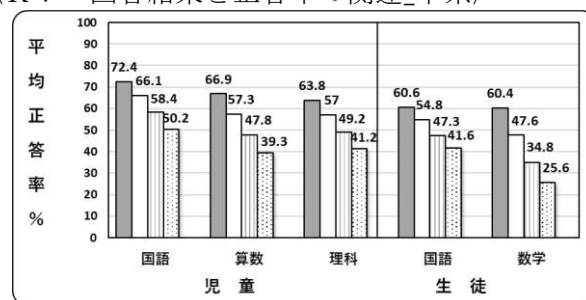
【児童生徒質問 3 2〔3 2〕】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



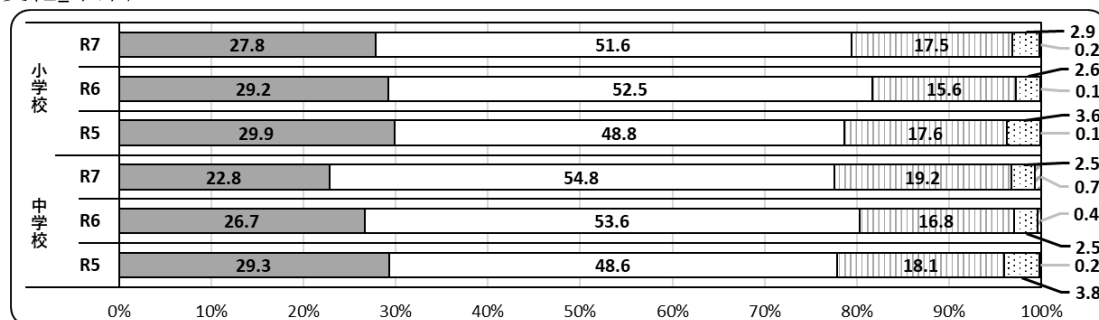
〈R 7 全国との比較〉



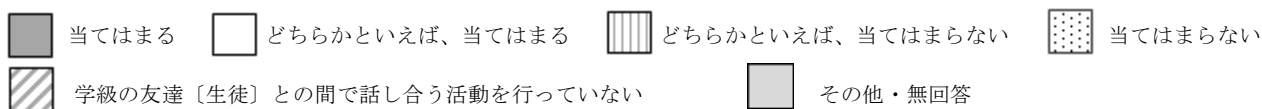
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



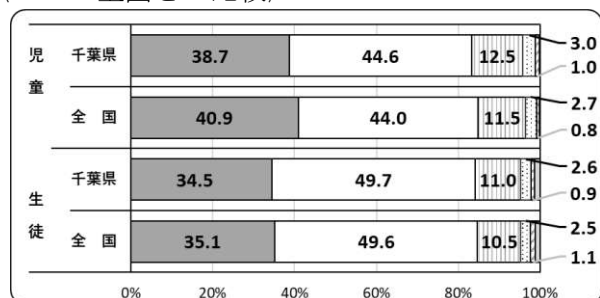
〈経年変化_本県〉



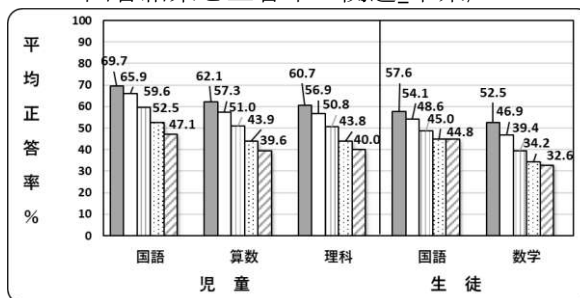
【児童生徒質問３５〔３５〕】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



〈R 7 全国との比較〉



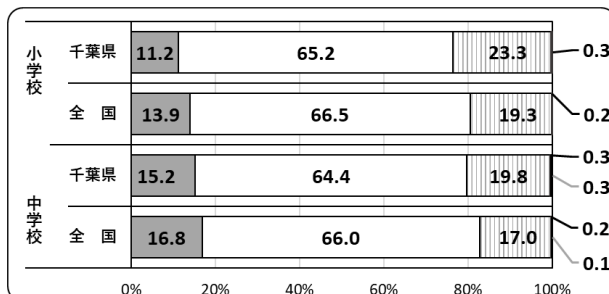
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



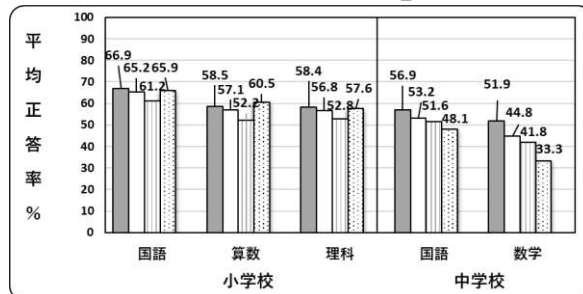
【学校質問２６〔２６〕】調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか



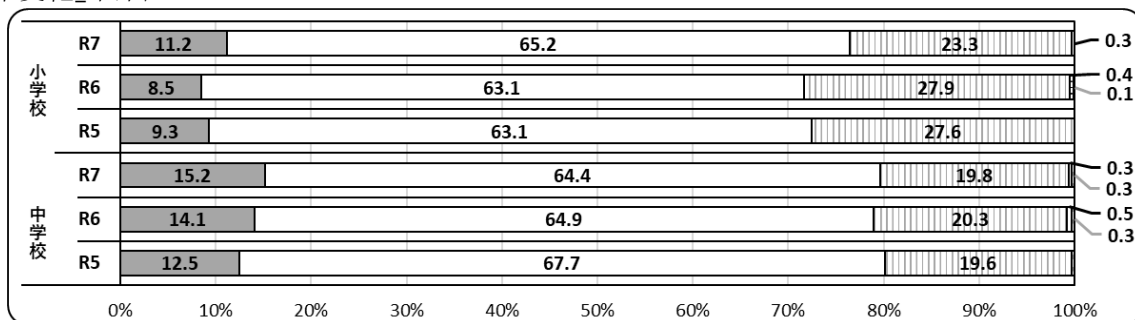
〈R 7 全国との比較〉



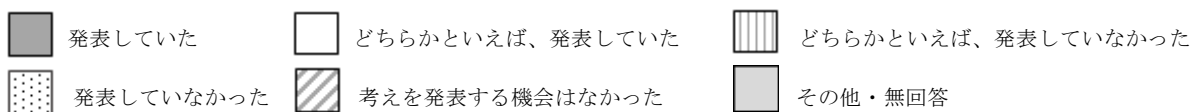
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



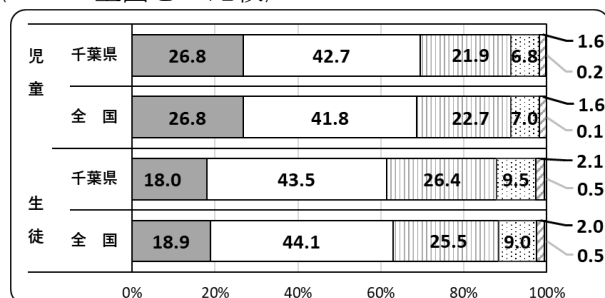
〈経年変化_本県〉



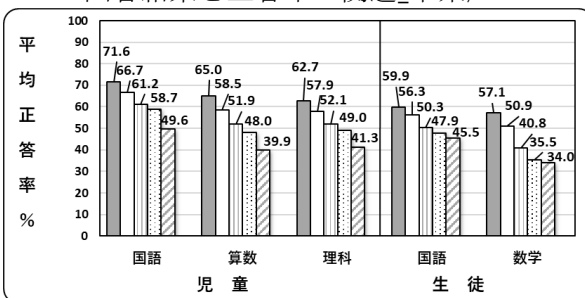
【児童生徒質問3 1〔3 1〕】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



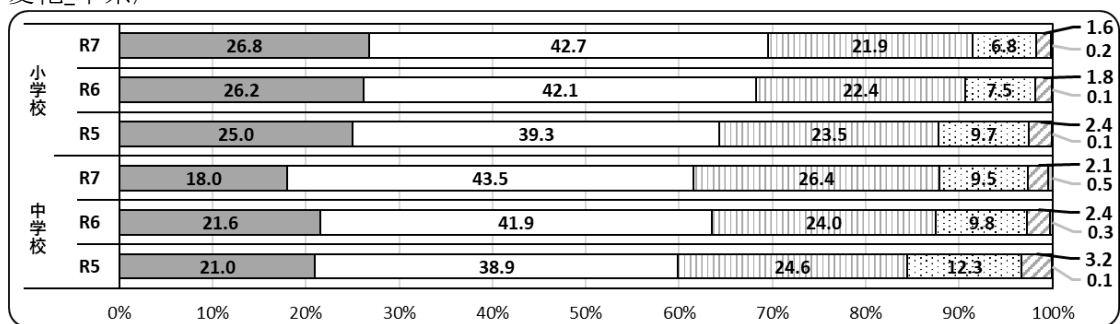
〈R 7 全国との比較〉



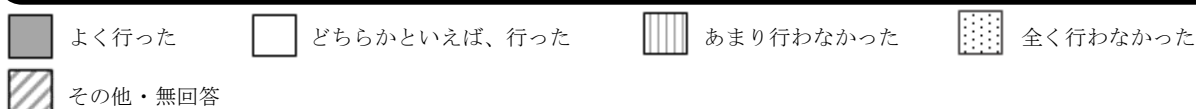
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



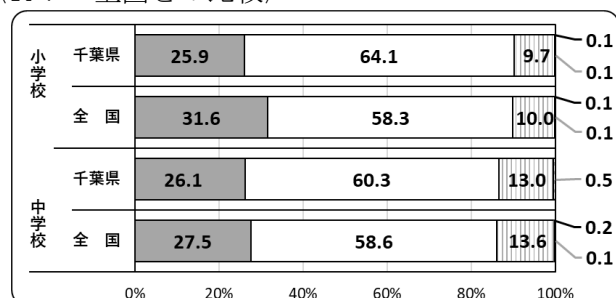
〈経年変化_本県〉



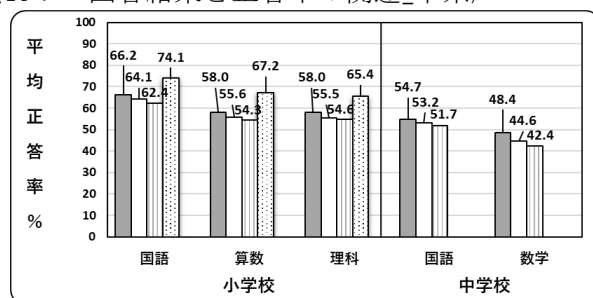
【学校質問3 2〔3 2〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



〈R 7 全国との比較〉



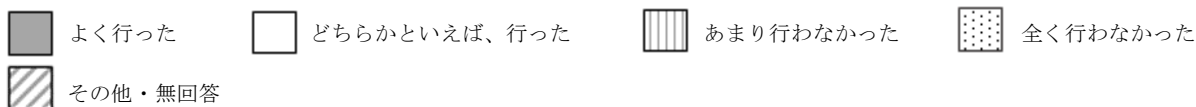
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



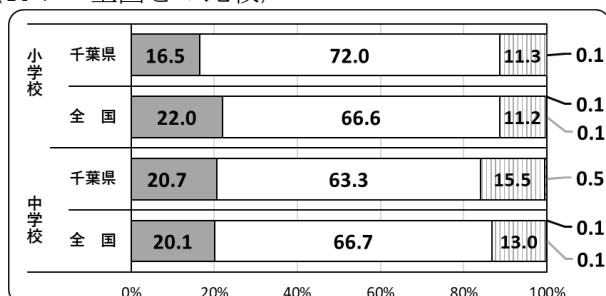
〈経年変化_本県〉



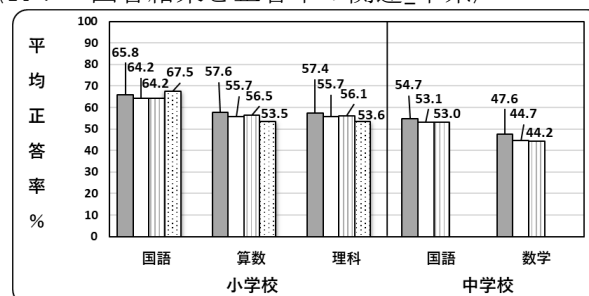
【学校質問 3 3〔3 3〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



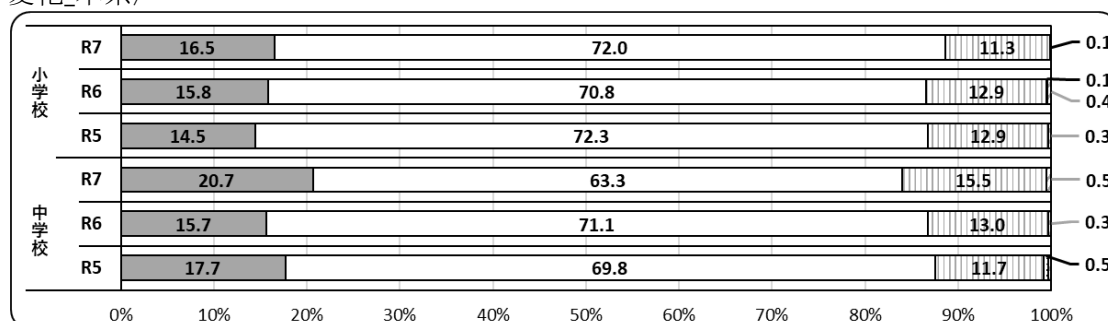
〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



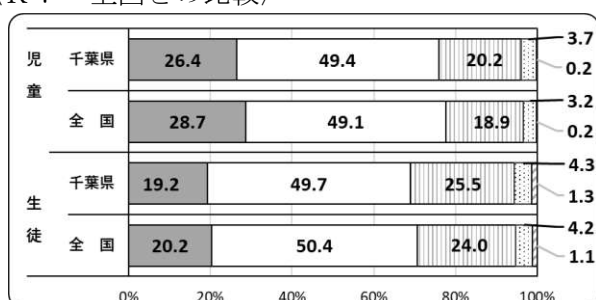
〈経年変化_本県〉



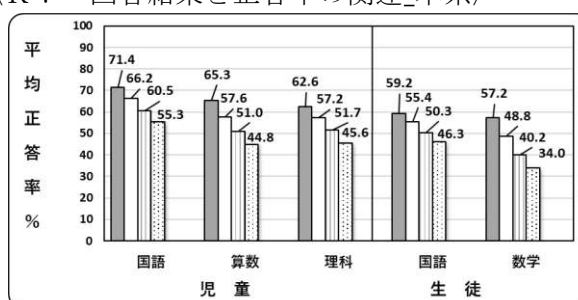
【児童生徒質問 3 3〔3 3〕】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



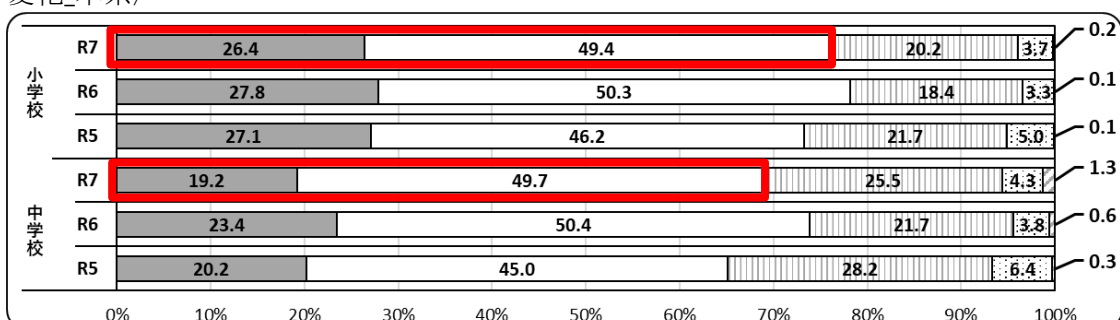
〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉

《三重クロス集計》 [本県のデータを県独自に分析]

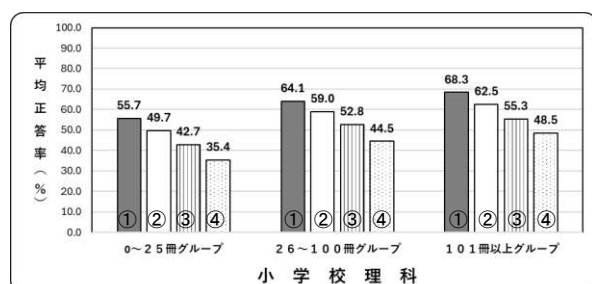
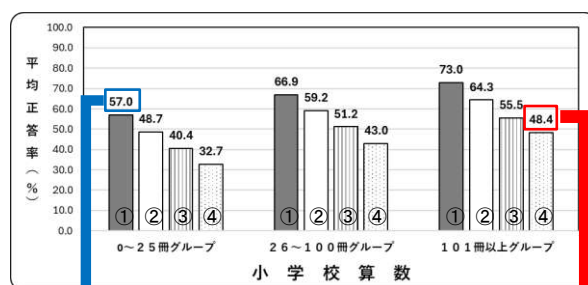
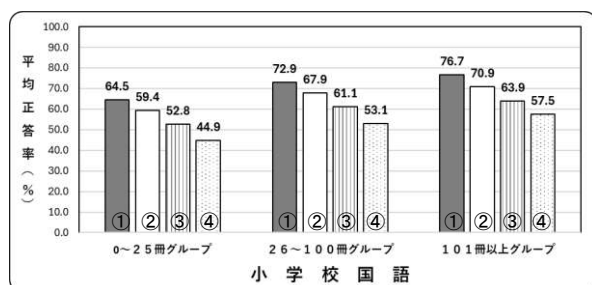
【縦軸:平均正答率】 × 【横軸:家の蔵書数】 × 【グラフ:主体的・対話的で深い学び】

22[22] 家にある本の冊数
【社会経済的背景】
0～25冊グループ
26～100冊グループ
101冊以上グループ



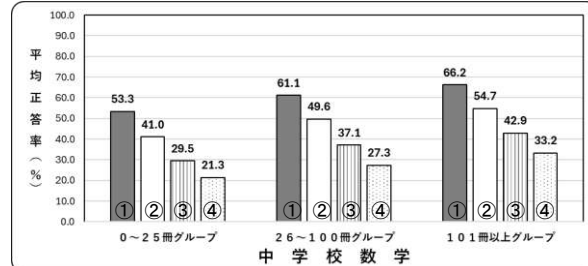
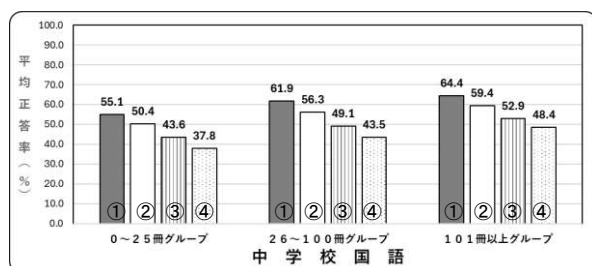
32[32] 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか 【主体的・対話的で深い学び】

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



家にある本の冊数が0～25冊だが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の平均正答率は57.0%。

家にある本の冊数が101冊以上だが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の平均正答率は48.4%。



＜考察＞

○家庭の社会経済的背景（SES）が低いほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる中でも、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SES が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。



「主体的・対話的で深い学び」の実践は、子供たちに「確かな学力」を身に付けさせることができる！

児童生徒の学習時間、教科に対する興味・関心

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

【児童生徒質問17〔17〕】

- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

【児童生徒質問19〔19〕】

上記2つの質問への回答結果と正答率の関連をみると、学習時間が長いと回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

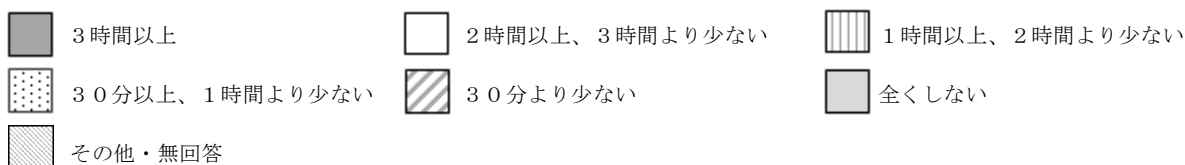
- 「各教科（国語、算数〔数学〕、理科）の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、国語、算数で低く、数学、理科で高い。

【児童生徒質問45〔45〕】【児童生徒質問53〔53〕】

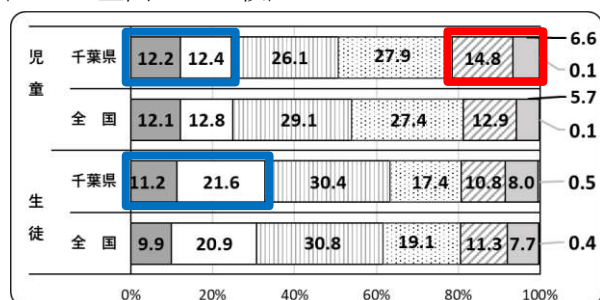
- 「各教科（国語、算数〔数学〕、理科）の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、国語、算数〔数学〕、中学校理科で低く、小学校理科で高い。

【児童生徒質問46〔46〕】【児童生徒質問54〔54〕】

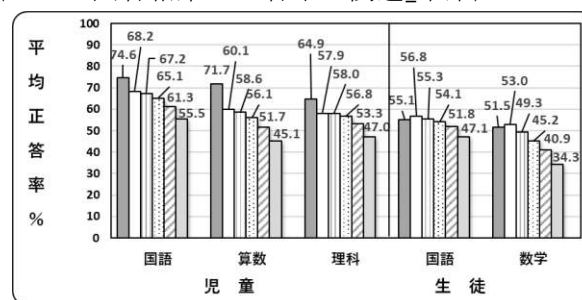
【児童生徒質問17〔17〕】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



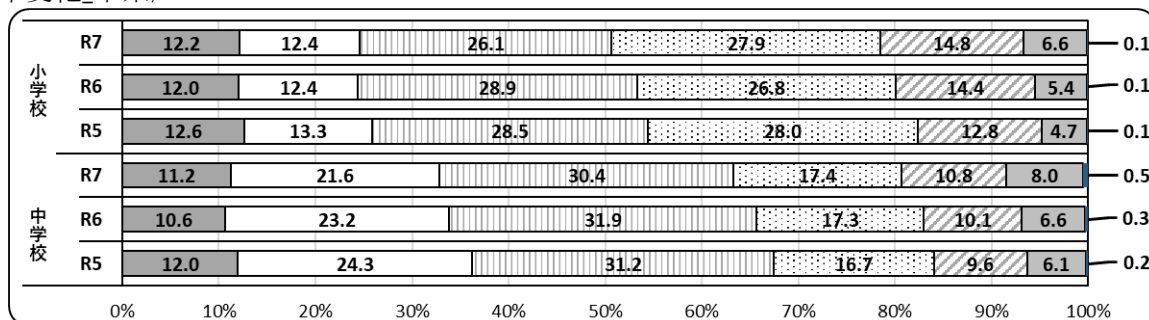
〈R7 全国との比較〉



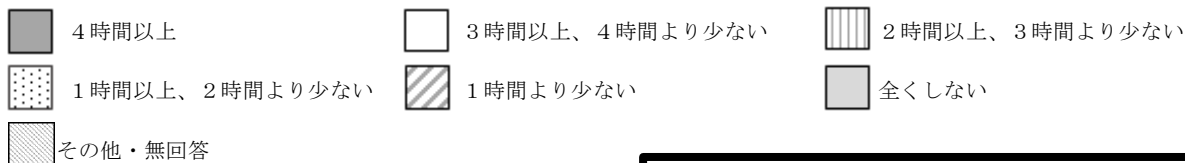
〈R7 回答結果と正答率の関連_本県〉



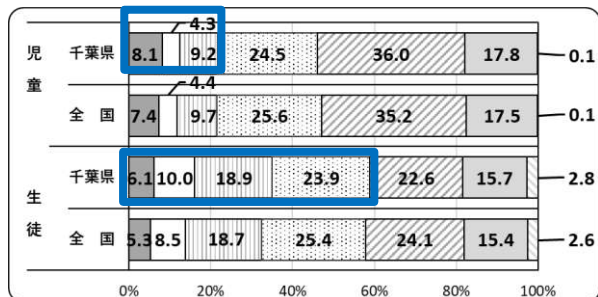
〈経年変化_本県〉



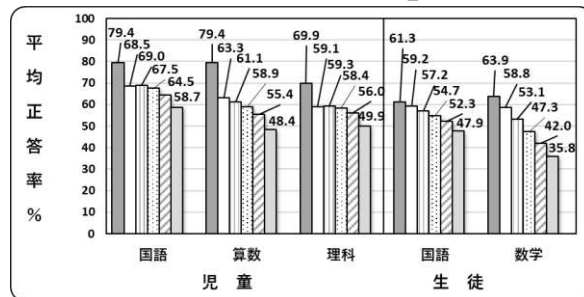
【児童生徒質問１９〔１９〕】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



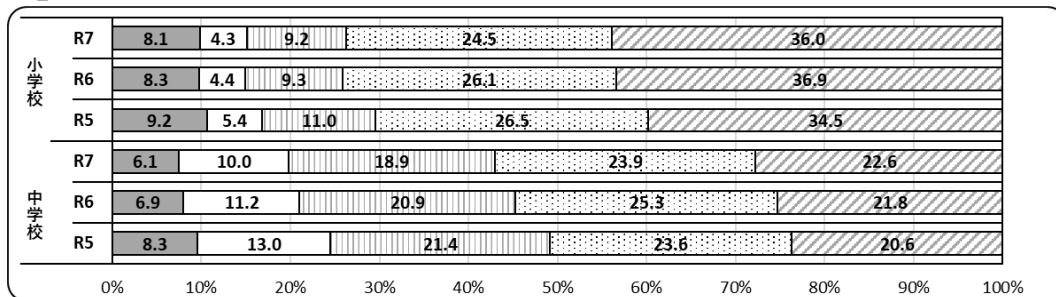
〈R 7 全国との比較〉



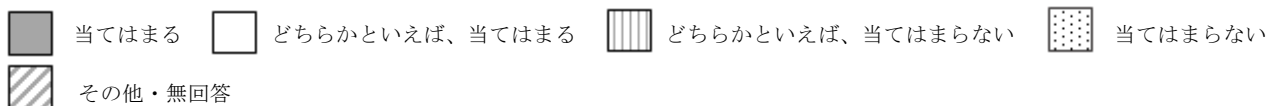
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



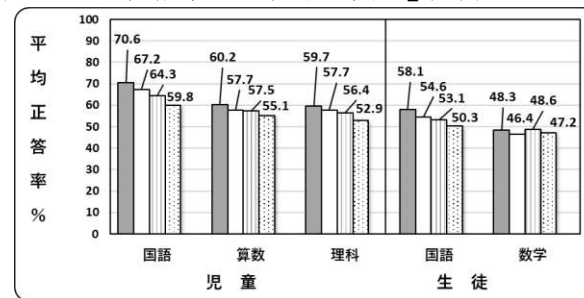
【児童生徒質問４５〔４５〕】国語の勉強は好きですか



〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



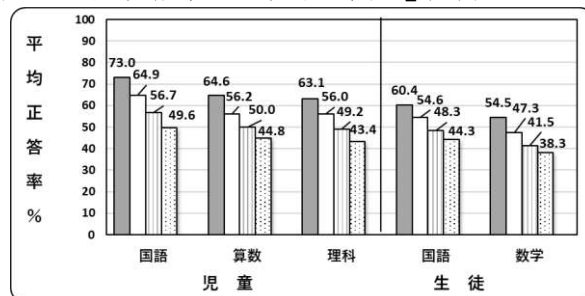
【児童生徒質問４６〔４６〕】国語の授業の内容はよく分かりますか



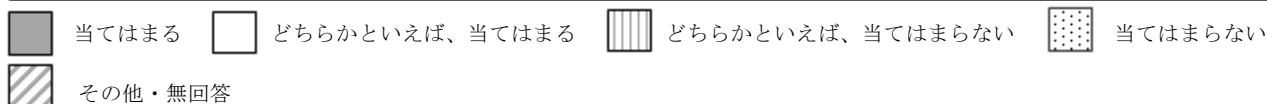
〈R 7 全国との比較〉



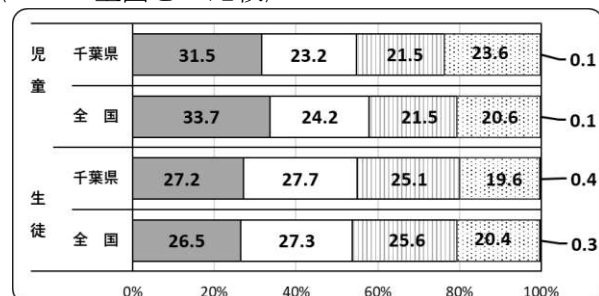
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



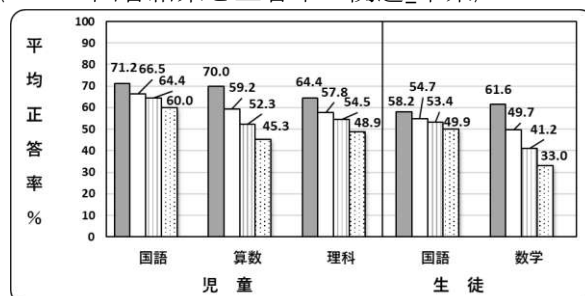
【児童生徒質問５３〔５３〕】算数〔数学〕の勉強は好きですか



〈R 7 全国との比較〉



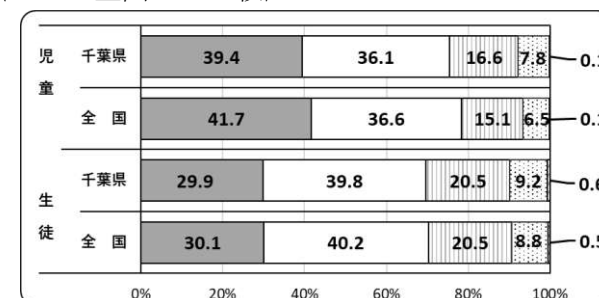
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



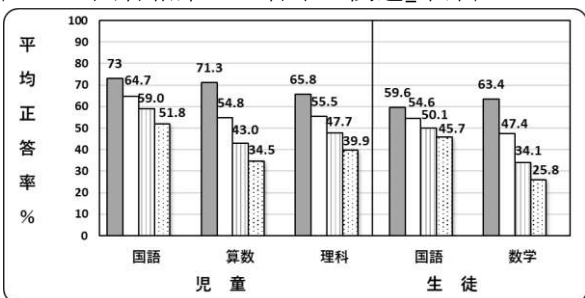
【児童生徒質問５４〔５４〕】算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか



〈R 7 全国との比較〉

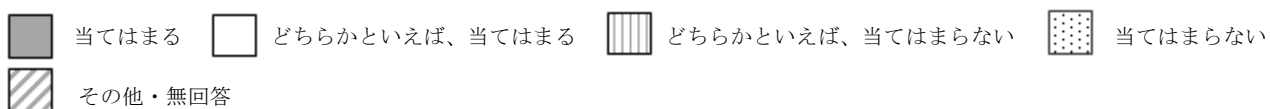


〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉

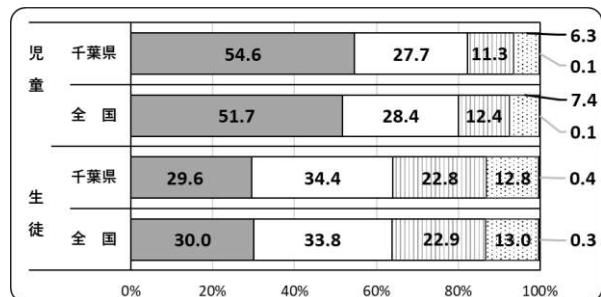


【児童生徒質問 6 1】理科の勉強は好きですか

【児童生徒質問 6 2】理科の授業の内容はよく分かりますか



〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 全国との比較〉



☆学力層別学習時間 [本県のデータを県独自に分析]

国語、算数・数学、小学校理科別に児童生徒を学力層別に分け、層別の学習時間（平日、休日）を分析

- ・学力層 ①正答率 80%以上 ②65%以上 80%未満 ③50%以上 65%未満 ④50%未満
- ・学習時間 平日：【児童生徒質問 1 7 [1 7]】 休日：【児童生徒質問 1 9 [1 9]】

<考察>

○約 2 割～3 割の児童生徒は、平日 2 時間以上勉強しているが、正答率が50%未満となっている。



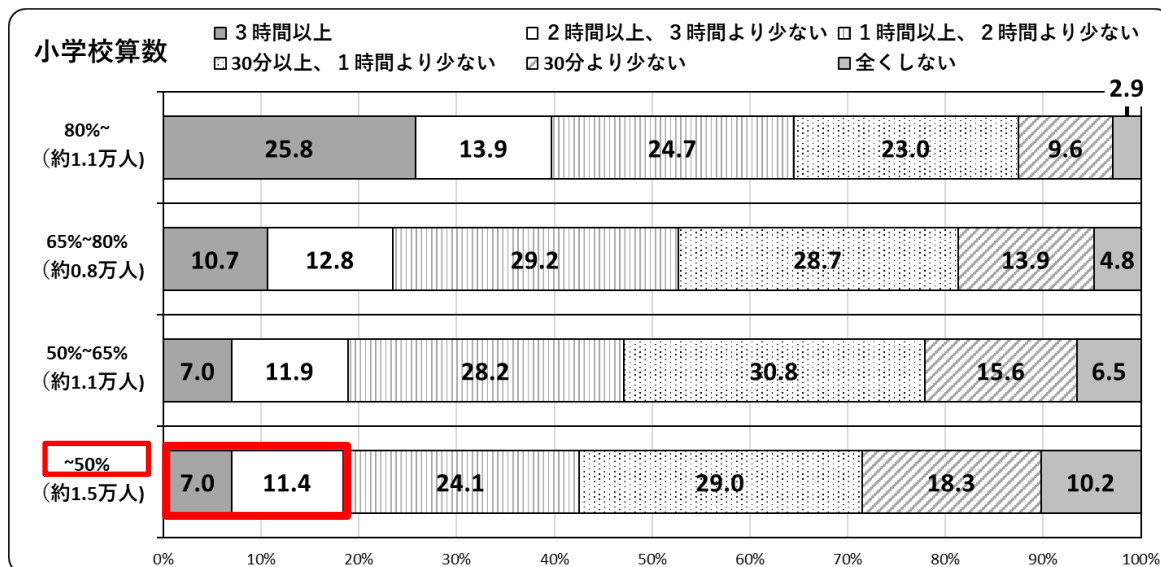
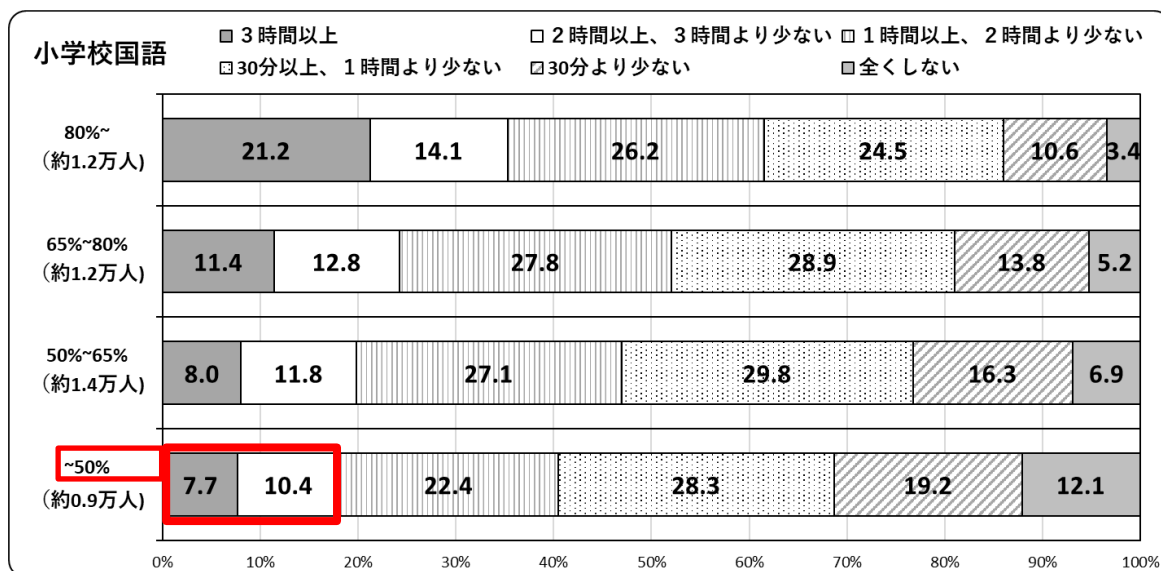
★学習の仕方、宿題(課題)の出し方に問題はないかの確認が必要

★家庭での学習の仕方の指導

★一斉に同じ宿題(課題)を与えるのではなく、個に応じた課題を出すなどの工夫

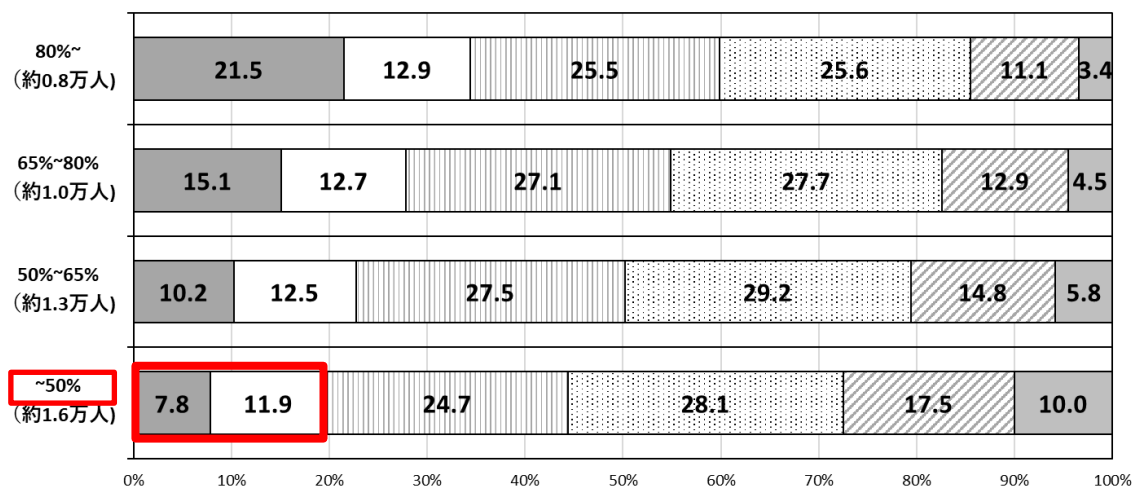
「個別最適な学び」

学力（教科正答率）層別 児童生徒の平日の学習時間



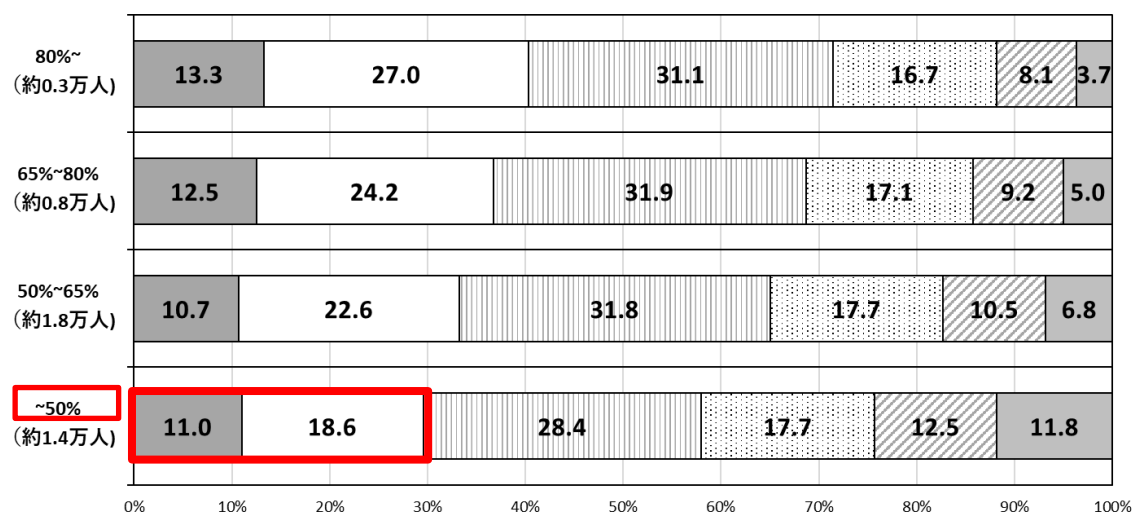
小学校理科

☒ 3時間以上 ☐ 2時間以上、3時間より少ない ☐ 1時間以上、2時間より少ない
☐ 30分以上、1時間より少ない ☐ 30分より少ない ☐ 全くしない



中学校国語

☒ 3時間以上 ☐ 2時間以上、3時間より少ない ☐ 1時間以上、2時間より少ない
☐ 30分以上、1時間より少ない ☐ 30分より少ない ☐ 全くしない



中学校数学

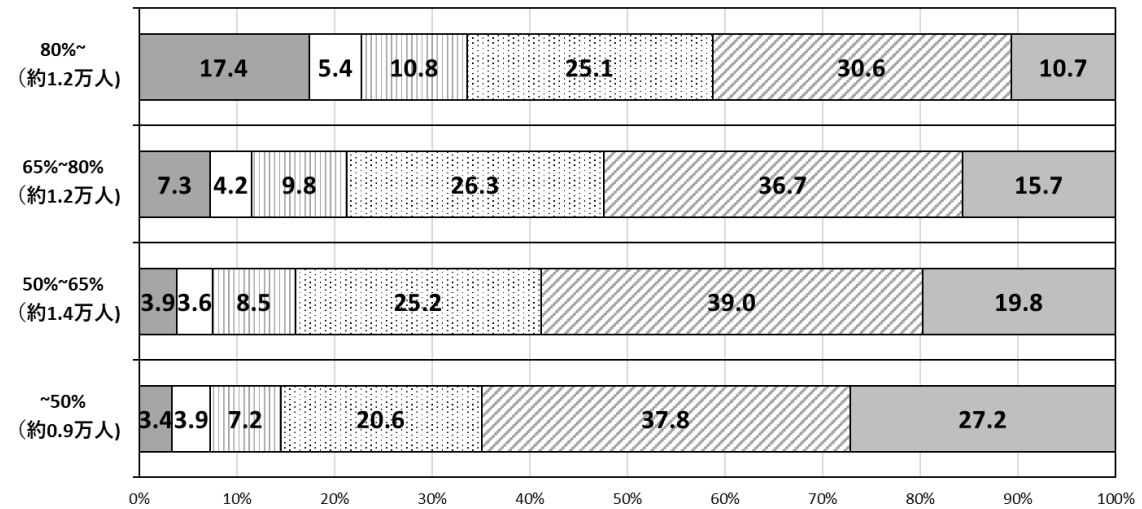
☒ 3時間以上 ☐ 2時間以上、3時間より少ない ☐ 1時間以上、2時間より少ない
☐ 30分以上、1時間より少ない ☐ 30分より少ない ☐ 全くしない



学力（教科正答率）層別 児童生徒の休日の学習時間

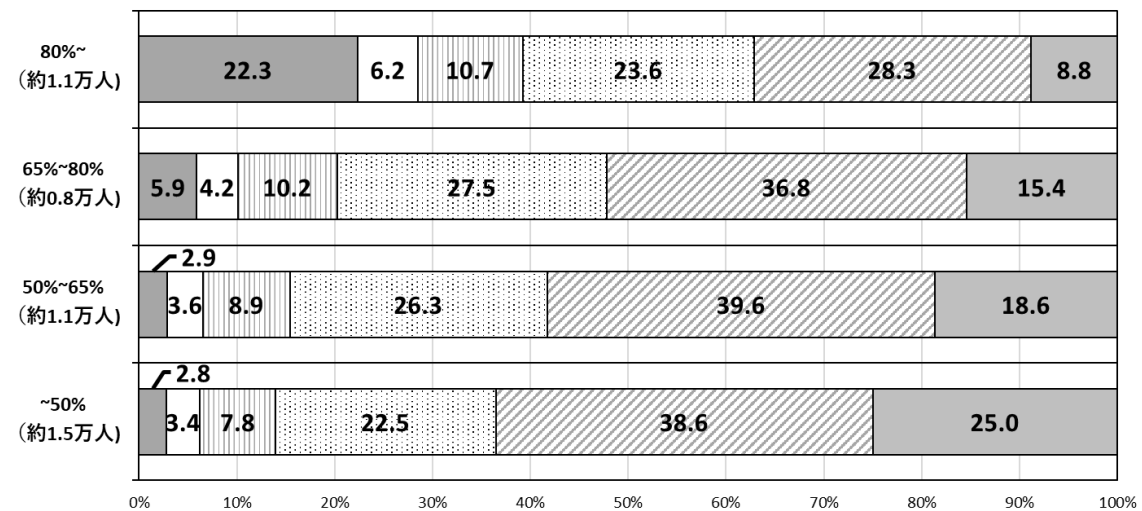
小学校国語

☒ 4時間以上 ☐ 3時間以上、4時間より少ない ☐ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない ☐ 1時間より少ない ☐ 全くしない



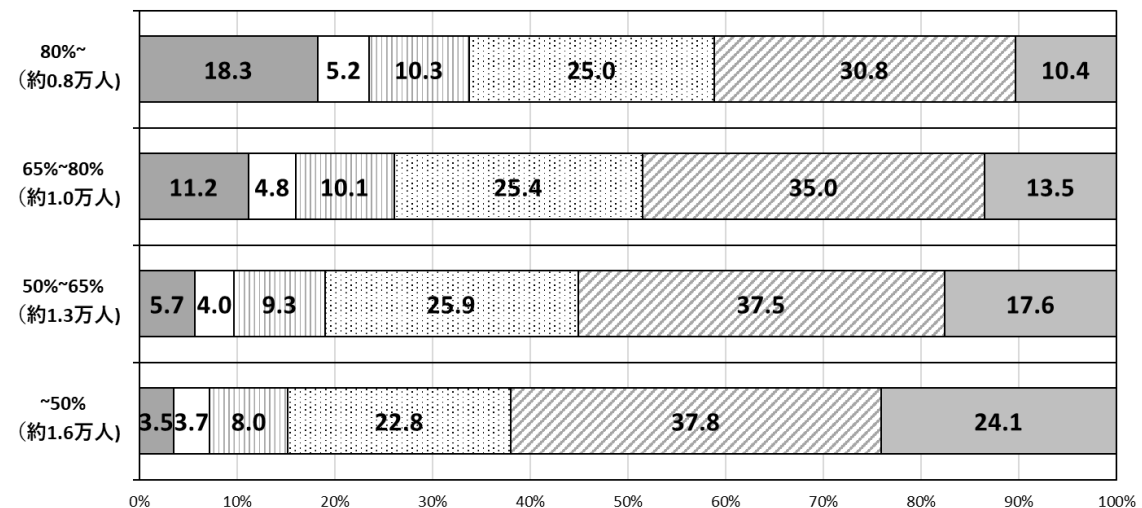
小学校算数

☒ 4時間以上 ☐ 3時間以上、4時間より少ない ☐ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない ☐ 1時間より少ない ☐ 全くしない



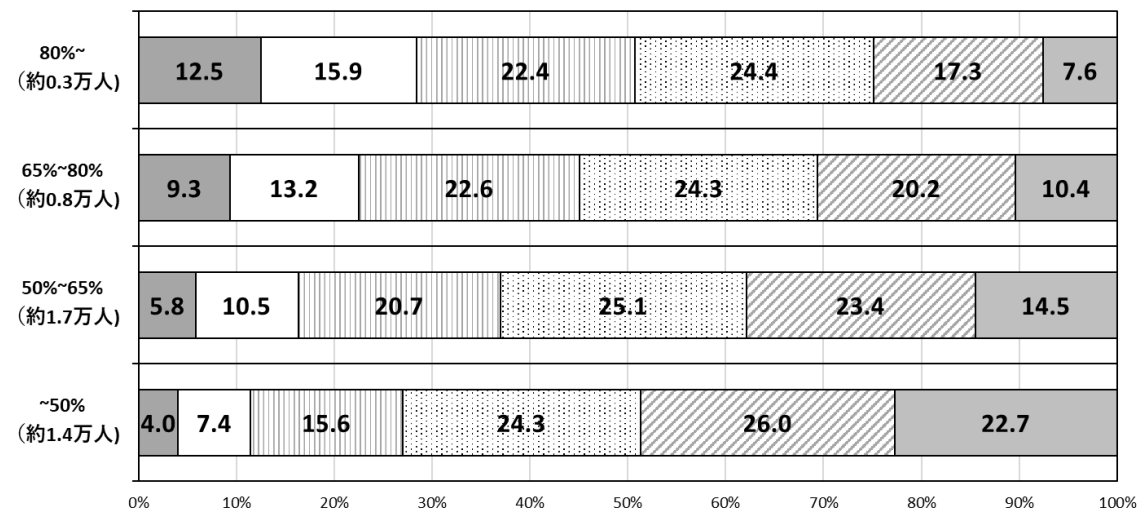
小学校理科

☒ 4時間以上 ☐ 3時間以上、4時間より少ない ☐ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない ☐ 1時間より少ない ☐ 全くしない



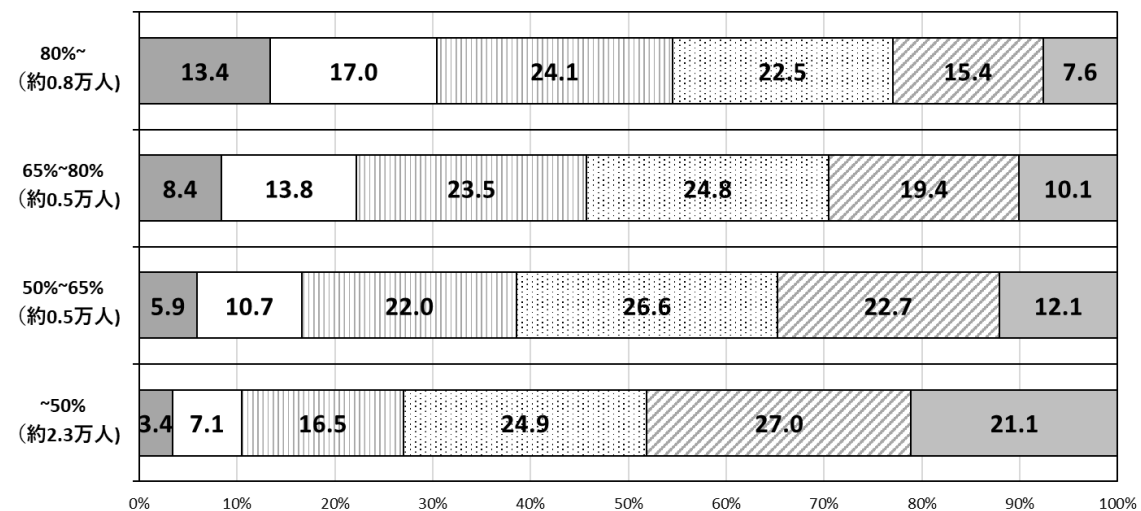
中学校国語

☐ 4 時間以上 ☐ 3 時間以上、4 時間より少ない ☐ 2 時間以上、3 時間より少ない
☐ 1 時間以上、2 時間より少ない ☐ 1 時間より少ない ☐ 全くしない



中学校数学

☐ 4 時間以上 ☐ 3 時間以上、4 時間より少ない ☐ 2 時間以上、3 時間より少ない
☐ 1 時間以上、2 時間より少ない ☐ 1 時間より少ない ☐ 全くしない



ICT を活用した学習状況（ICT の活用頻度）

- 「学校の授業時以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」の質問に対し「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で1.5ポイント、中学校で1.3ポイント低い。

【児童生徒質問18〔18〕】

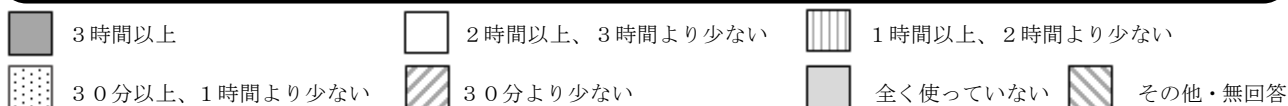
- 「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対し「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）」「週3回以上」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で12.8ポイント、中学校で9.8ポイント低い。

【児童生徒質問28〔28〕】

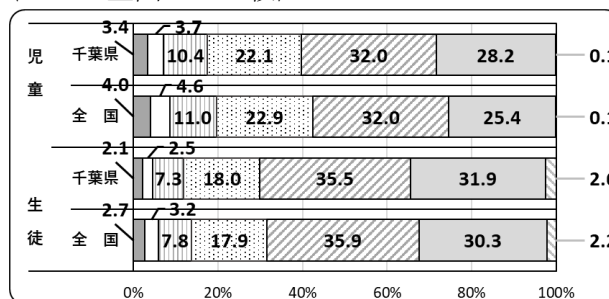
- 「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」の質問に対し「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）」「週3回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で2.5ポイント、中学校で7.0ポイント低い。

【学校質問58〔58〕】

【児童生徒質問18〔18〕】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

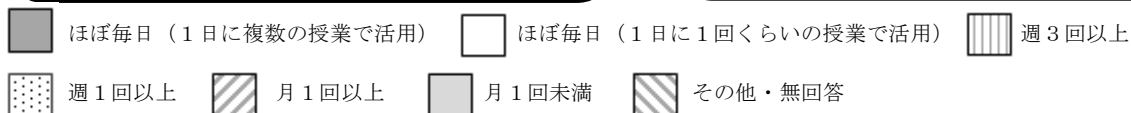


〈R7 全国との比較〉

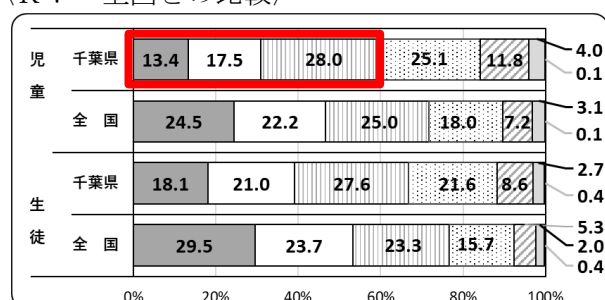


【児童生徒質問28〔28〕】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

〔回答項目新規〕



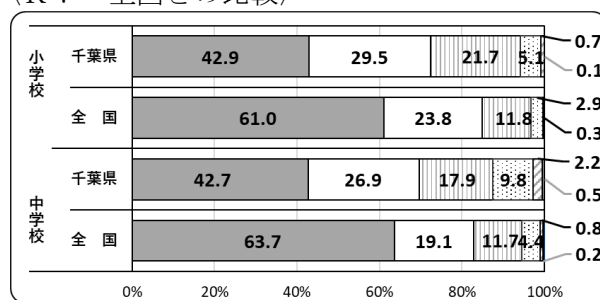
〈R7 全国との比較〉



【学校質問58〔58〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

〔回答項目新規〕

〈R7 全国との比較〉



ICT を活用した学習状況（場面ごとの使用頻度_学校質問）

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、小学校は 94.0%、中学校は 91.3%である。

【学校質問 5 9〔5 9〕】

- 「教職員と調査対象学年の児童〔生徒〕がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると小学校で 1.5 ポイント、中学校で 1.8 ポイント低い。

【学校質問 6 1〔6 1〕】

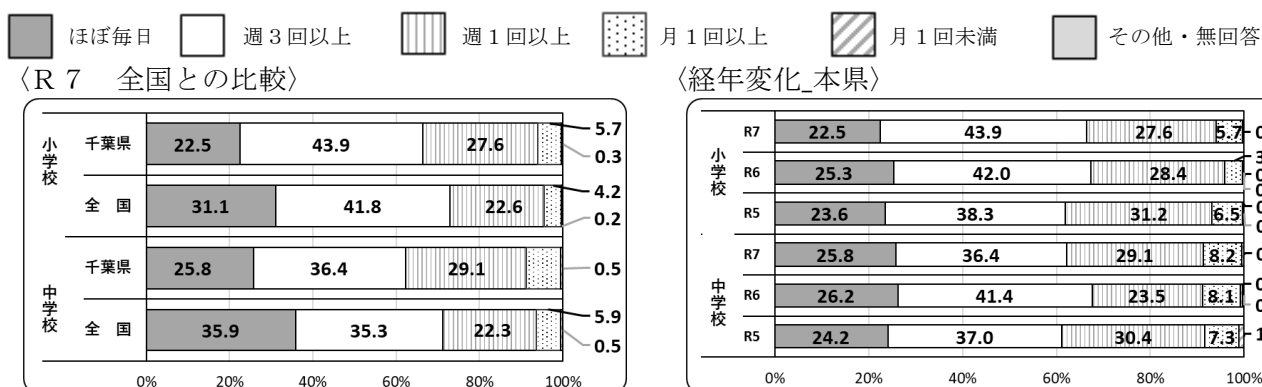
- 「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると小学校で 4.8 ポイント低く、中学校で 0.6 ポイント高い。

【学校質問 6 0〔6 0〕】

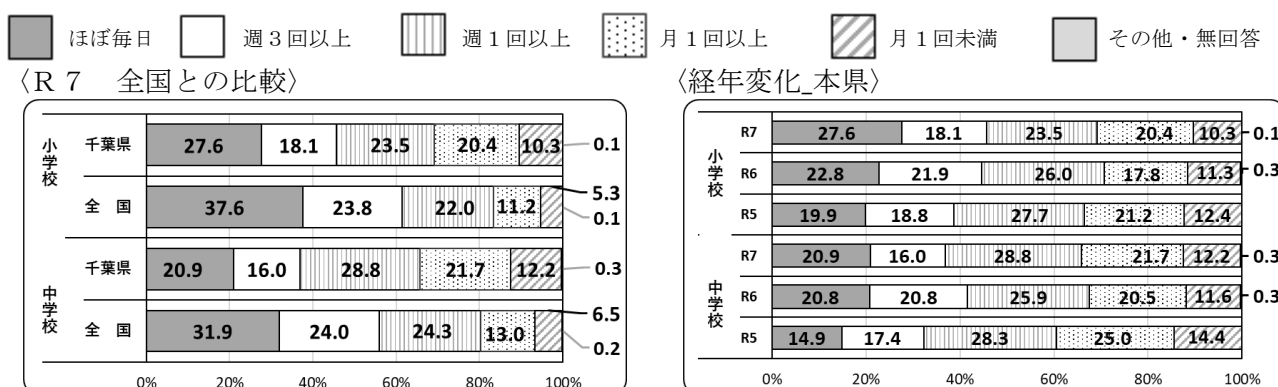
- 「調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると小学校で 1.4 ポイント高く、中学校で 1.9 ポイント低い。

【学校質問 6 2〔6 2〕】

【学校質問 5 9〔5 9〕】調査対象学年の児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



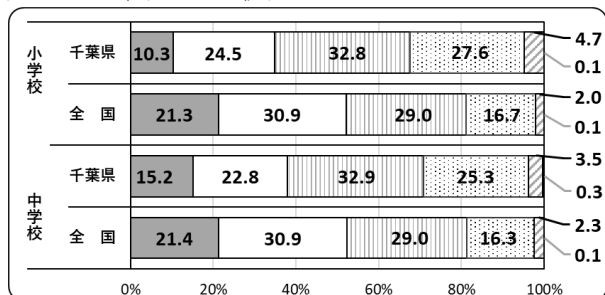
【学校質問 6 1〔6 1〕】教職員と調査対象学年の児童〔生徒〕がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



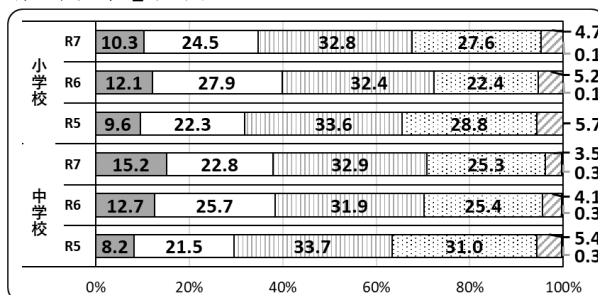
【学校質問 6 0〔6 0〕】調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか

ほぼ毎日
 週 3 回以上
 週 1 回以上
 月 1 回以上
 月 1 回未満
 その他・無回答

〈R 7 全国との比較〉



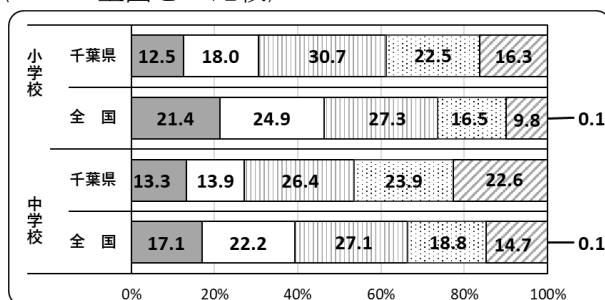
〈経年変化_本県〉



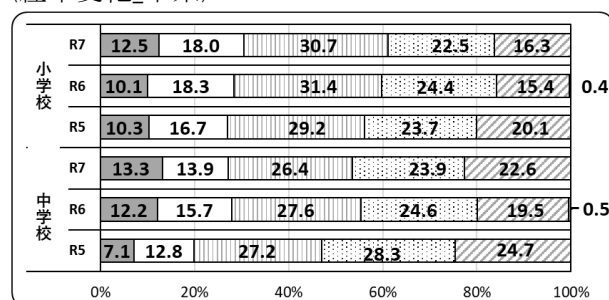
【学校質問 6 2〔6 2〕】調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか

ほぼ毎日
 週 3 回以上
 週 1 回以上
 月 1 回以上
 月 1 回未満
 その他・無回答

〈R 7 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



ICT を活用した学習状況（ICT 活用能力_児童生徒質問）

○「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると小学校で 1.1 ポイント、中学校で 0.8 ポイント低い。

【児童生徒質問 29-1〔29-1〕】

○「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると小学校、中学校ともに同程度の状況である。

【児童生徒質問 29-2〔29-2〕】

○「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると小学校で 1.6 ポイント、中学校で 2.9 ポイント低い。

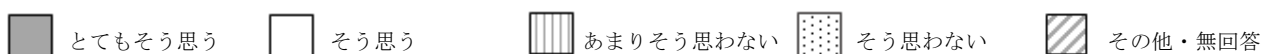
【児童生徒質問 29-3〔29-3〕】

○「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると小学校で 2.3 ポイント、中学校で 1.5 ポイント高い。

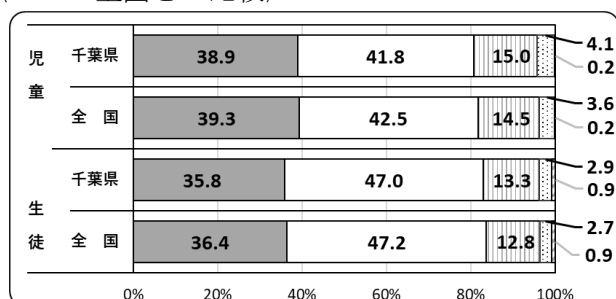
【児童生徒質問 29-4〔29-4〕】

【児童生徒質問 29-1〔29-1〕】あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか

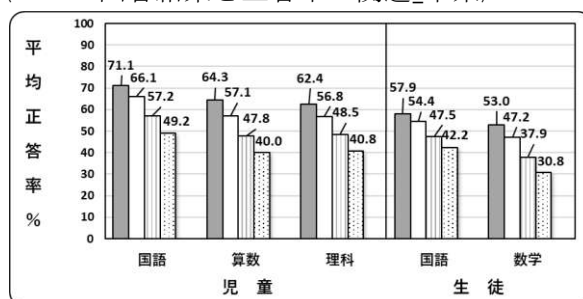
【新規】



〈R 7 全国との比較〉

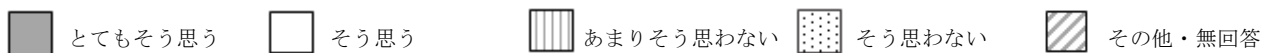


〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉

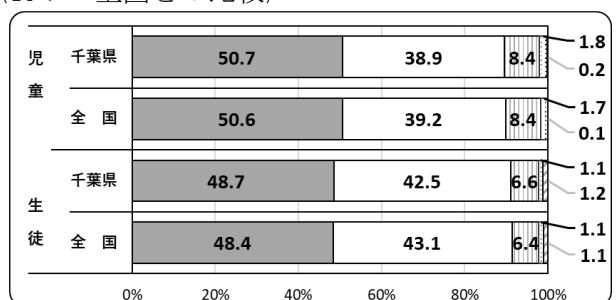


【児童生徒質問 29-2〔29-2〕】あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか

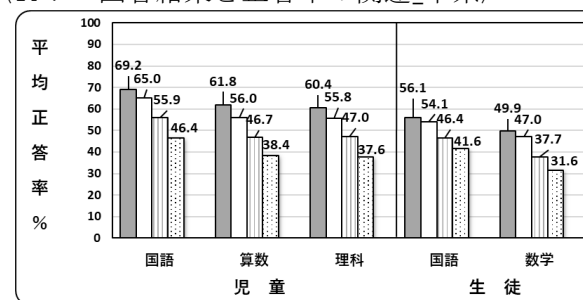
【新規】



〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉

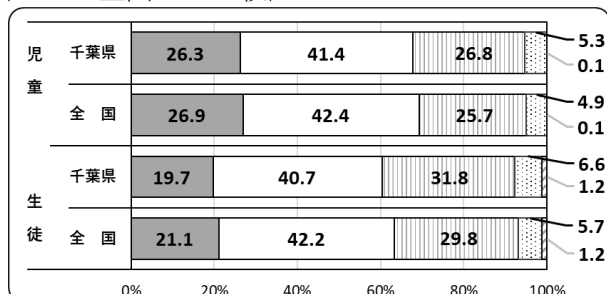


【児童生徒質問 29-3 [29-3]】あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか

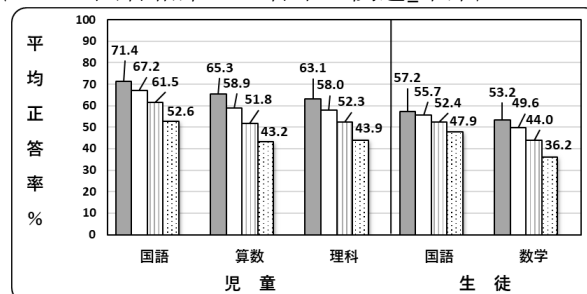
【新規】

とてもそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 その他・無回答

〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉

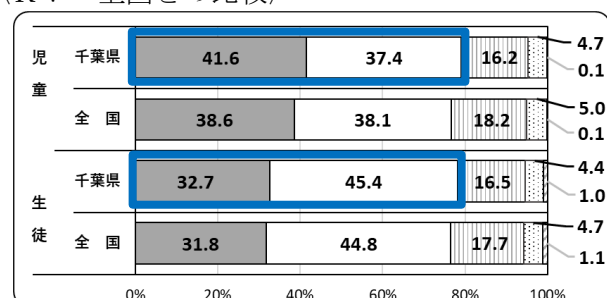


【児童生徒質問 29-4 [29-4]】あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

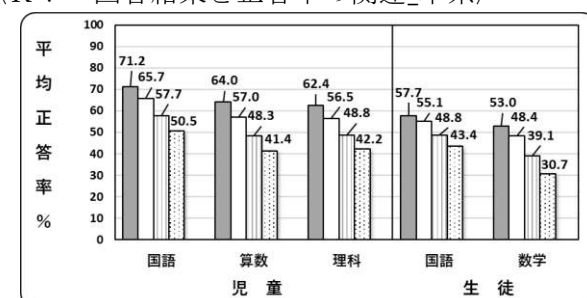
【新規】

とてもそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 その他・無回答

〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



ICT を活用した学習状況（ICT の活用を推進するための有効な取組）

- 「教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で 0.1 ポイント低く、中学校で 1.7 ポイント高い。

【学校質問 5 6〔5 6〕】

- 「コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、小学校で 90.1%、中学校で 79.9%である。

【学校質問 5 7〔5 7〕】

- 「児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると、小学校で 4.3 ポイント、中学校で 6.0 ポイント高い。

【学校質問 6 7－3〔6 7－3〕】

- 「児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、外国人児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると、小学校で 9.5 ポイント、中学校で 9.2 ポイント高い。

【学校質問 6 7－4〔6 7－4〕】

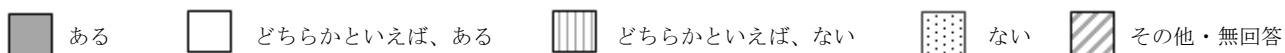
- 「児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童生徒の心身の状況の把握にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると、小学校で 6.3 ポイント、中学校で 2.6 ポイント高い。

【学校質問 6 7－5〔6 7－5〕】

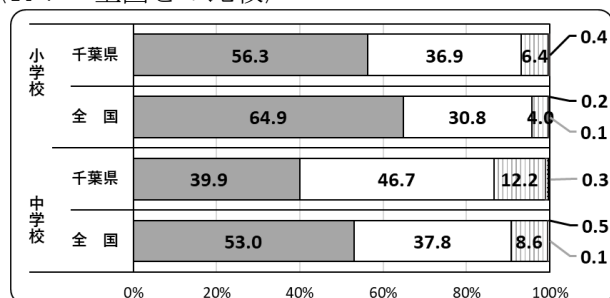
- 「児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週 3 回以上」「週 1 回以上」と回答した割合は、昨年度と比較すると、小学校で 1.3 ポイント高い。

【学校質問 6 7－6〔6 7－6〕】

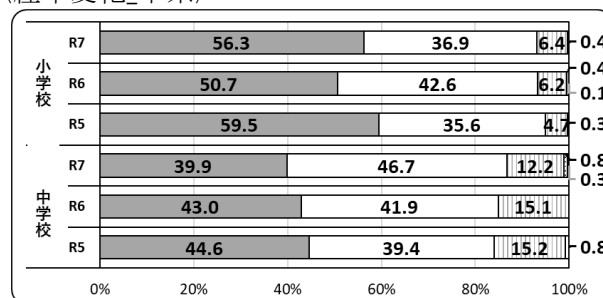
【学校質問 5 6〔5 6〕】教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



〈R 7 全国との比較〉



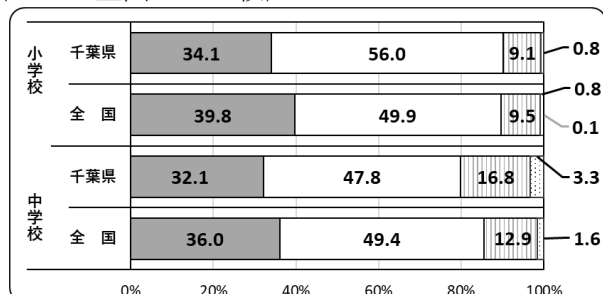
〈経年変化_本県〉



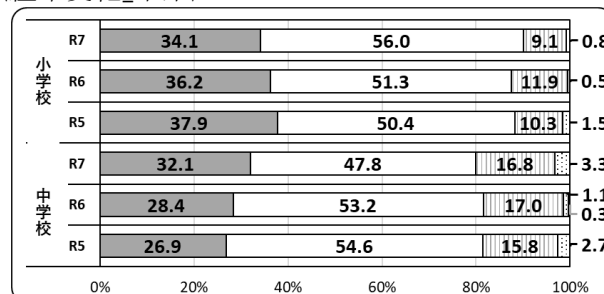
【学校質問 5 7〔5 7〕】コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか



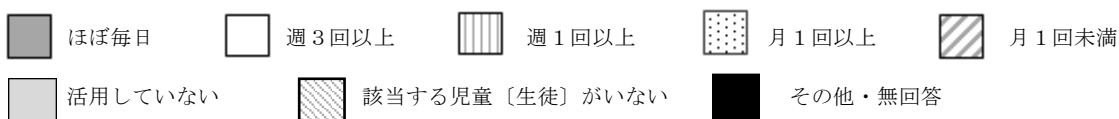
〈R 7 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



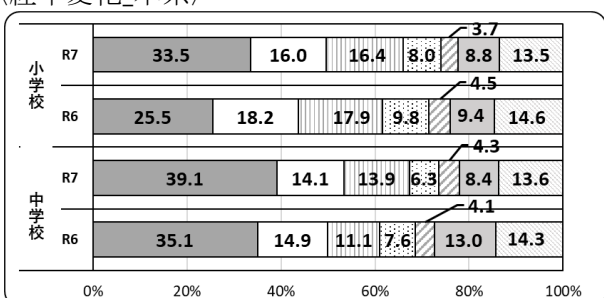
【学校質問 6 7－3〔6 7－3〕】児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか



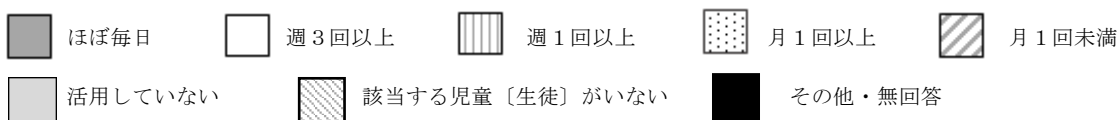
〈R 7 全国との比較〉



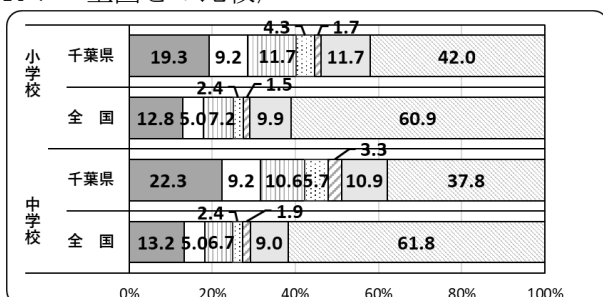
〈経年変化_本県〉



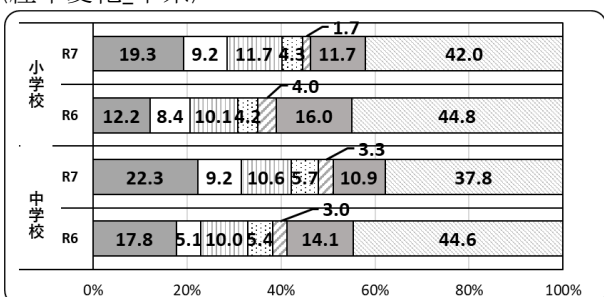
【学校質問 6 7－4〔6 7－4〕】児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、外国人児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか



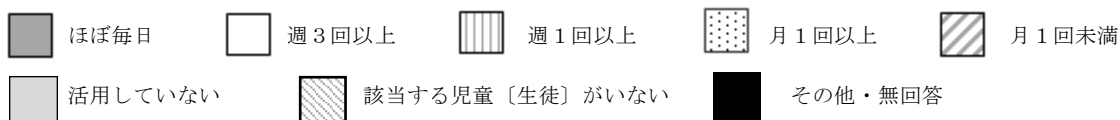
〈R 7 全国との比較〉



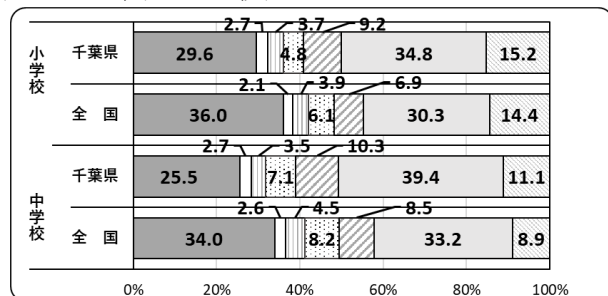
〈経年変化_本県〉



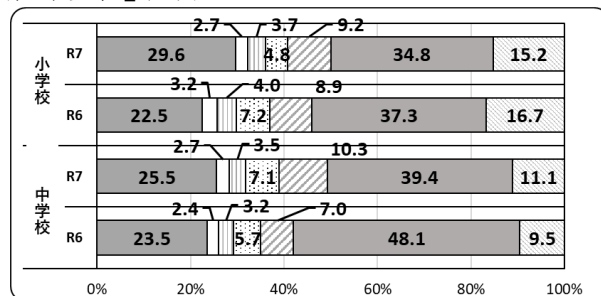
【学校質問 6 7－5〔6 7－5〕】児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童生徒の心身の状況の把握にどの程度活用していますか



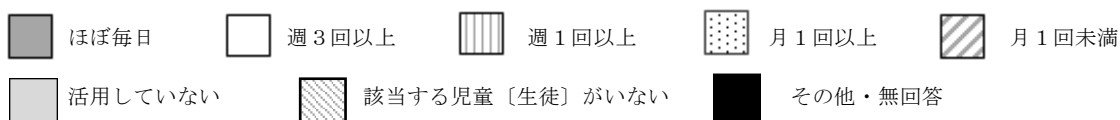
〈R 7 全国との比較〉



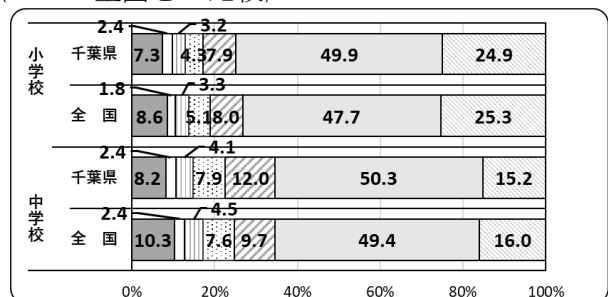
〈経年変化_本県〉



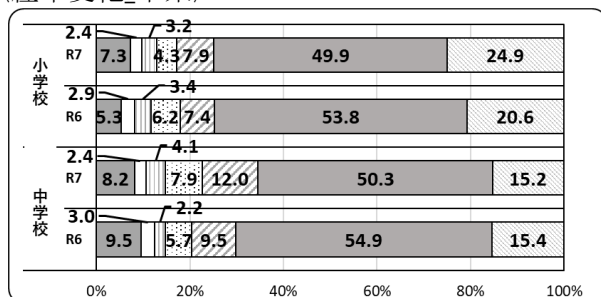
【学校質問 6 7－6〔6 7－6〕】児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援にどの程度活用していますか



〈R 7 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



本調査の記述式問題に対する児童生徒の取組状況

○「解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか」

【児童生徒質問 国1】

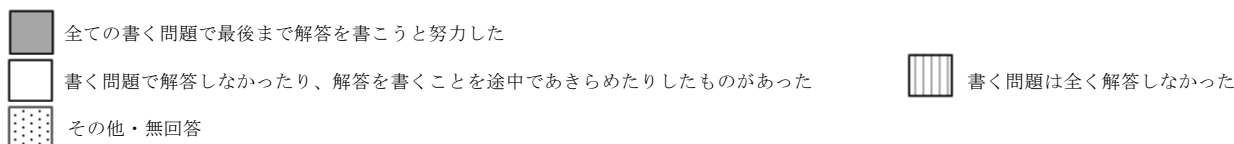
○「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く算数の問題〔言葉や数、式を使って説明する数学の問題〕について、どのように解答しましたか」

【児童生徒質問 算1〔数1〕】

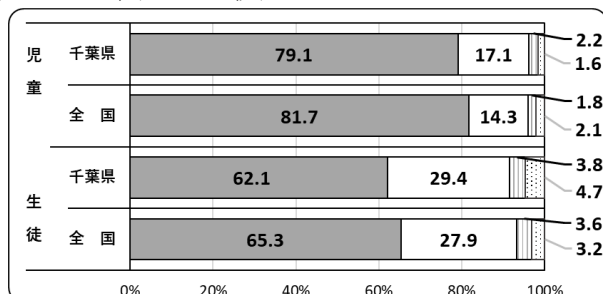
上記2つの質問に、それぞれ肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問 国1】

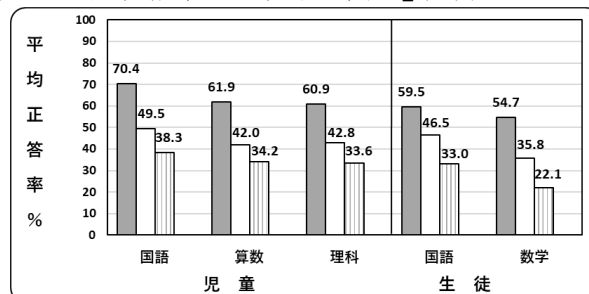
解答を文章で書く国語の問題について、どのように解答しましたか



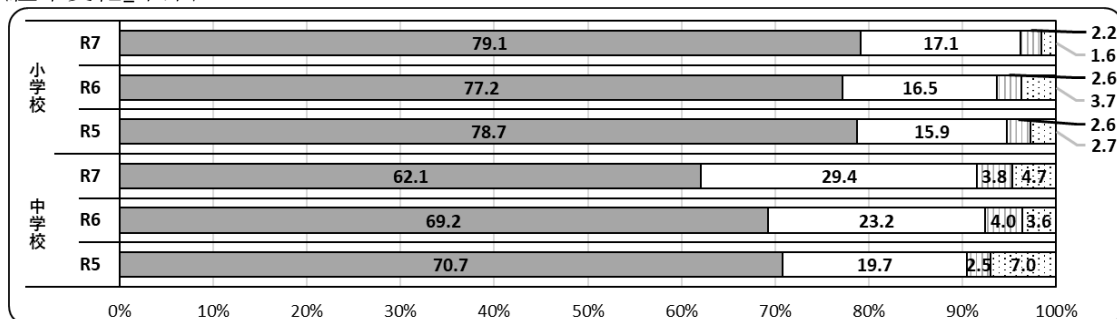
〈R7 全国との比較〉



〈R7 回答結果と正答率の関連_本県〉

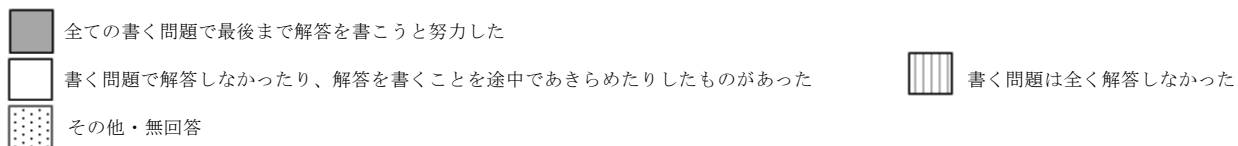


〈経年変化_本県〉

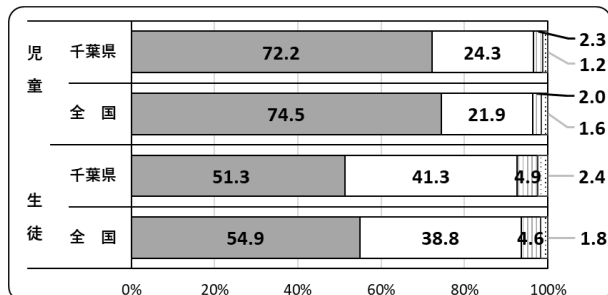


【児童生徒質問 算1〔数1〕】

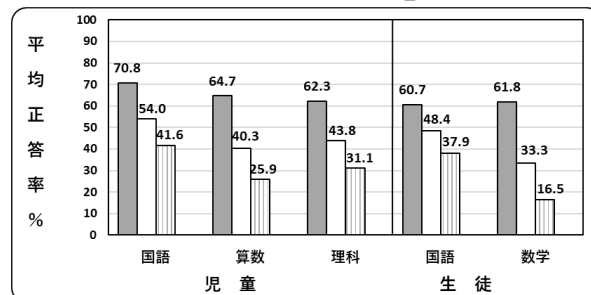
言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く算数の問題〔言葉や数、式を使って説明する数学の問題〕について、どのように解答しましたか



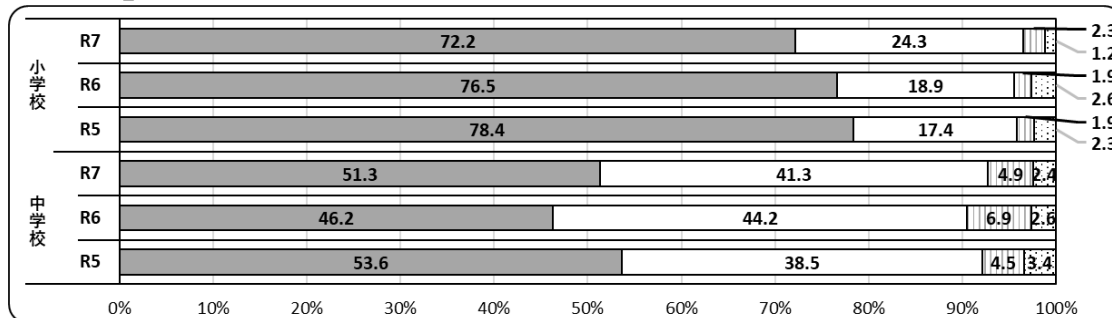
〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



児童生徒の自己有用感、幸福感等に関する状況

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。また、経年で見ると、肯定的回答の割合が高くなっている。

【児童生徒質問 5〔5〕】

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で 2.9 ポイント、中学校で 2.1 ポイント高い。

【児童生徒質問 6〔6〕】

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で 0.2 ポイント高く、中学校で 1.4 ポイント高い。

【児童生徒質問 7〔7〕】

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で 0.5 ポイント、中学校で 1.6 ポイント高くなっている。

【児童生徒質問 11〔11〕】

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問 12〔12〕】

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問 13〔13〕】

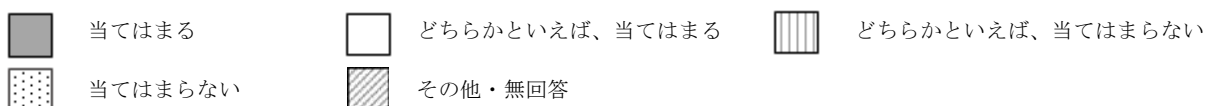
○「友達関係に満足していますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で 0.5 ポイント、中学校で 1.4 ポイント高い。

【児童生徒質問 14〔14〕】

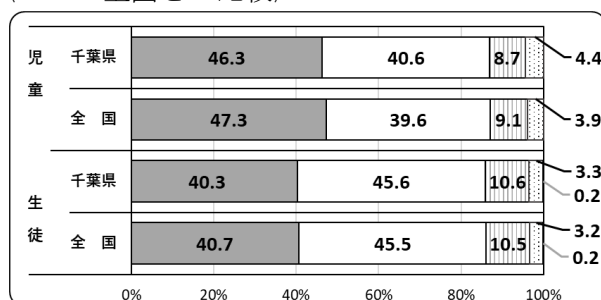
○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問 15〔15〕】

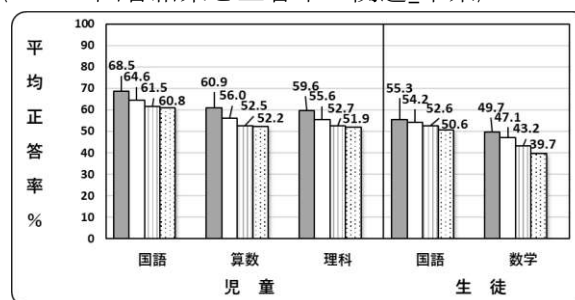
【児童生徒質問 5〔5〕】自分には、よいところがあると思いますか



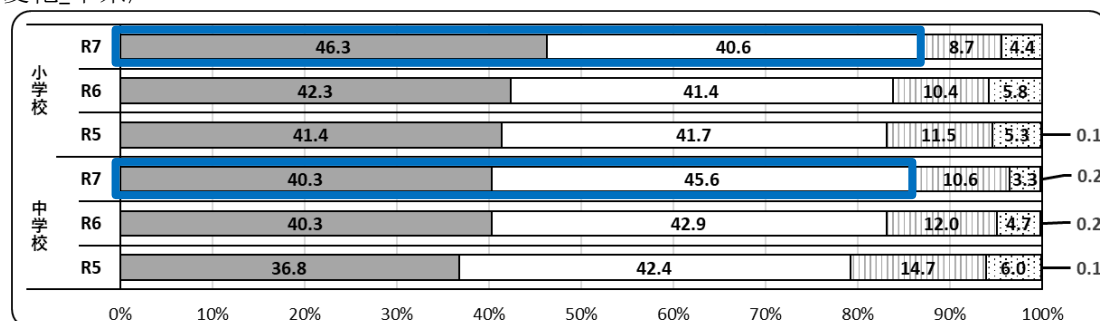
〈R 7 全国との比較〉



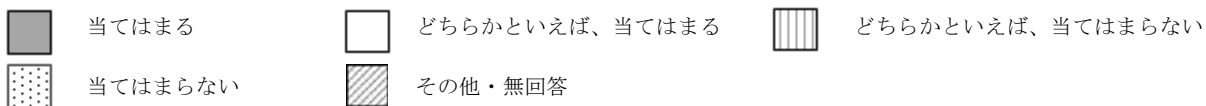
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



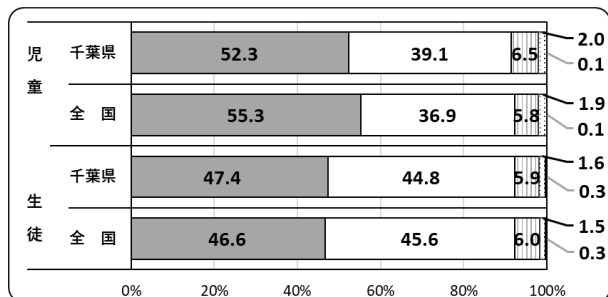
〈経年変化_本県〉



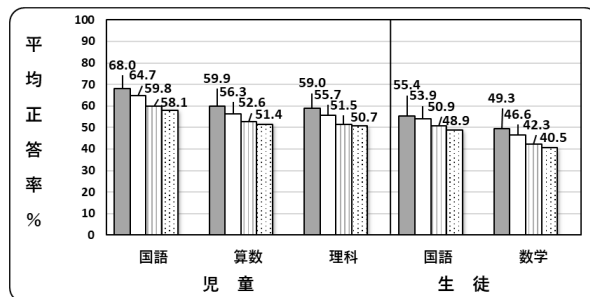
【児童生徒質問6〔6〕】先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか



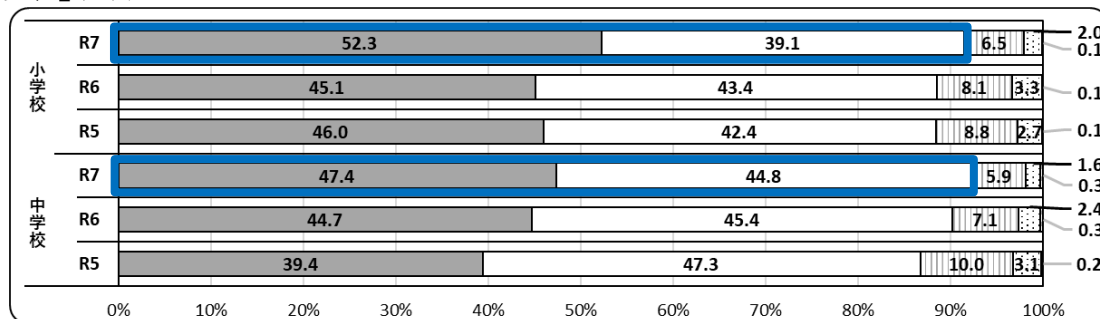
〈R 7 全国との比較〉



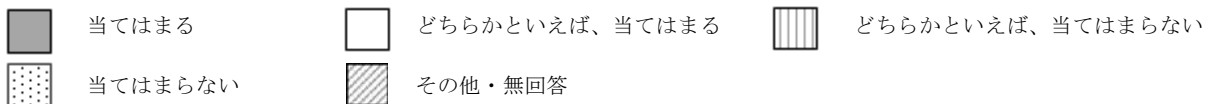
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



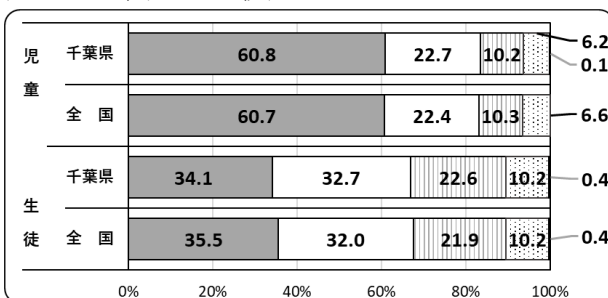
〈経年変化_本県〉



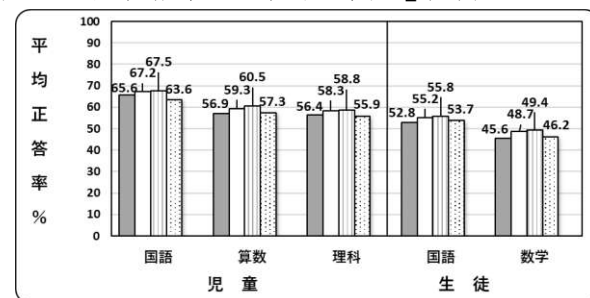
【児童生徒質問7〔7〕】将来の夢や目標を持っていますか



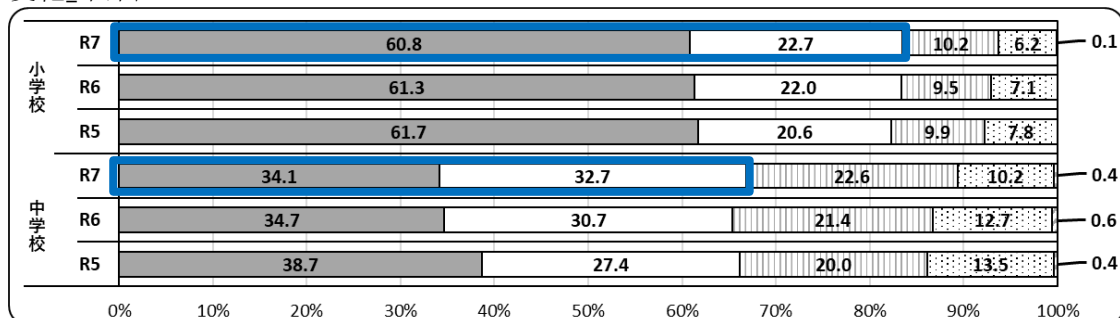
〈R 7 全国との比較〉



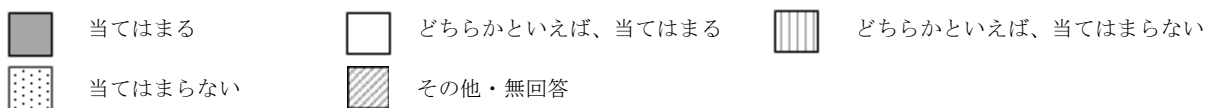
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



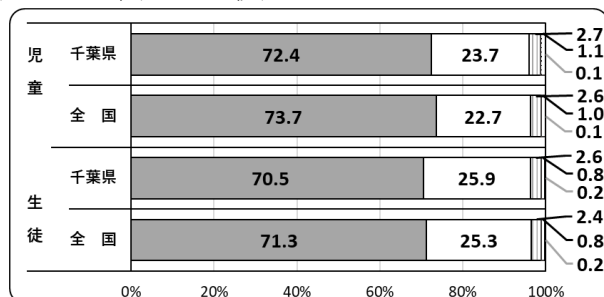
〈経年変化_本県〉



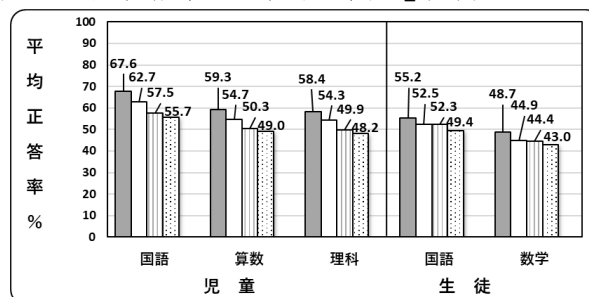
【児童生徒質問１１〔１１）】人の役に立つ人間になりたいと思いますか



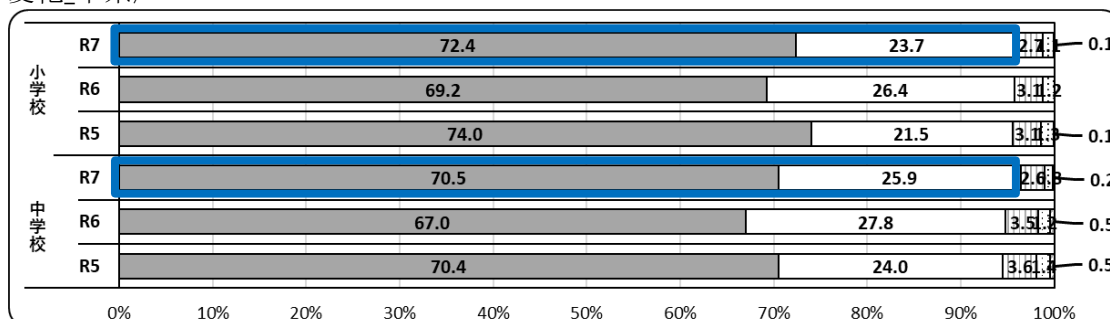
〈R 7 全国との比較〉



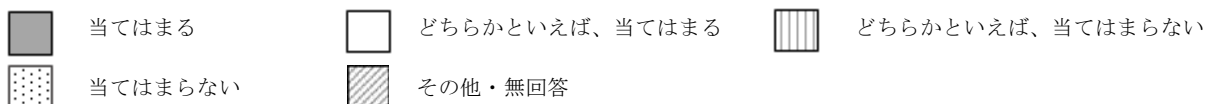
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



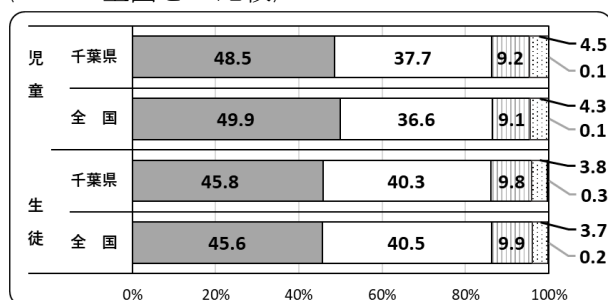
〈経年変化_本県〉



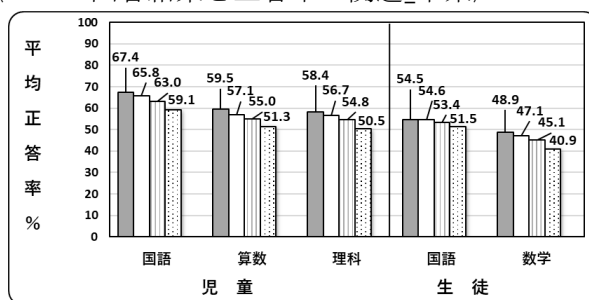
【児童生徒質問１２〔１２）】学校に行くのは楽しいと思いますか



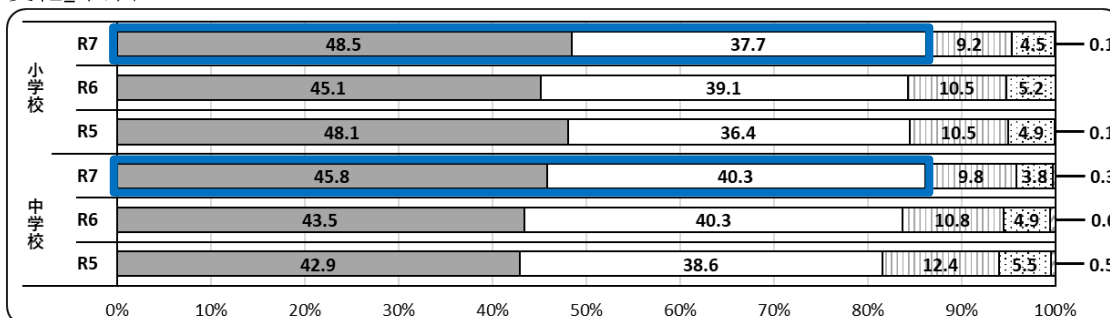
〈R 7 全国との比較〉



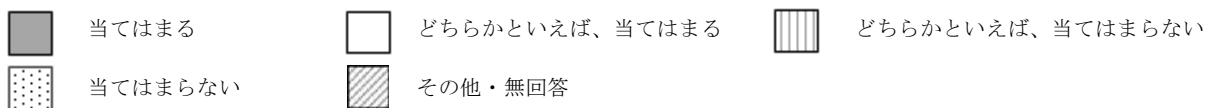
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



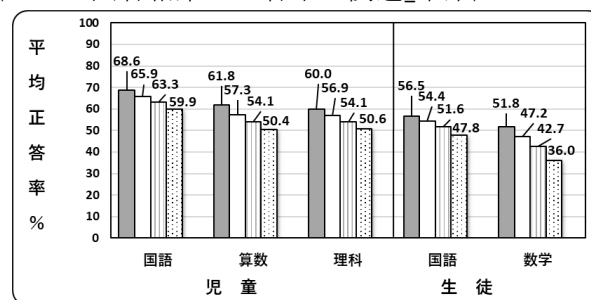
【児童生徒質問 1 3 [1 3]】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



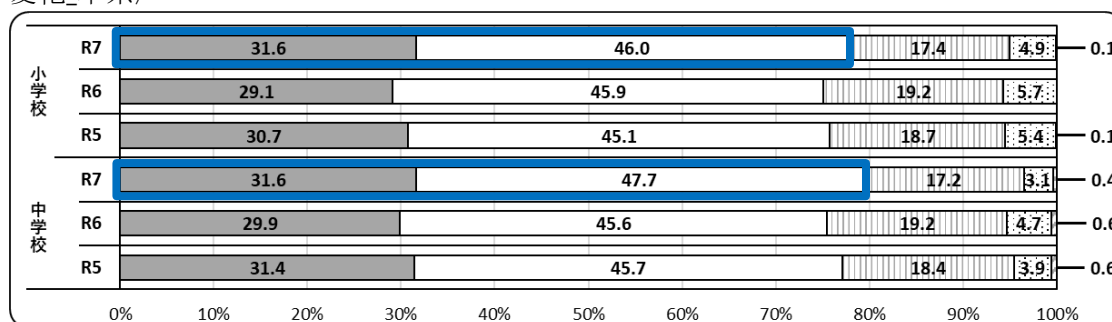
〈R 7 全国との比較〉



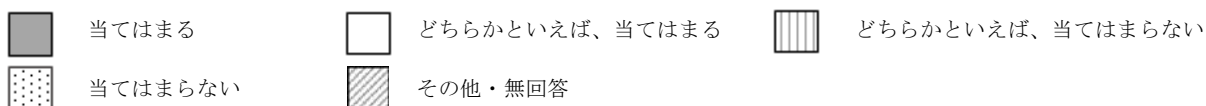
〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



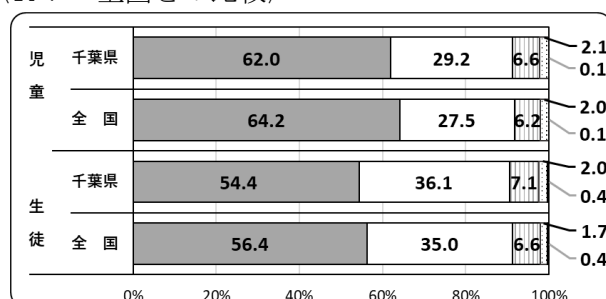
〈経年変化_本県〉



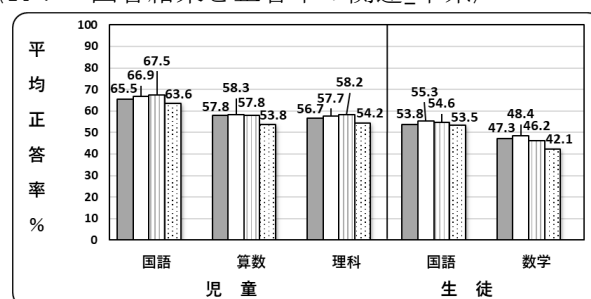
【児童生徒質問 1 4 [1 4]】友達関係に満足していますか



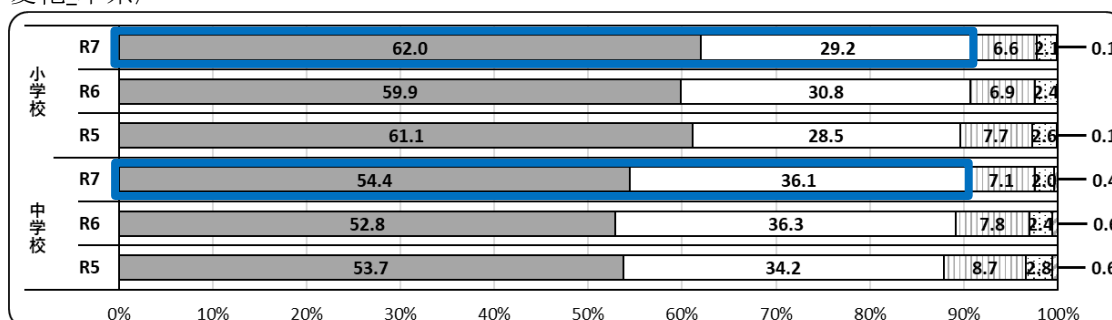
〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



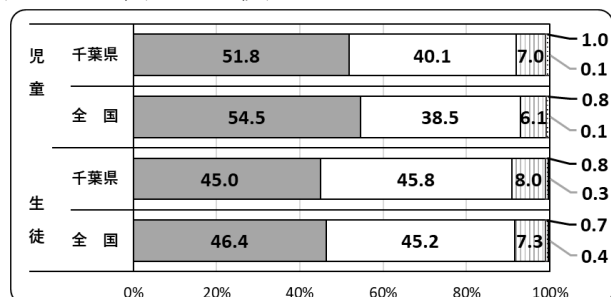
〈経年変化_本県〉



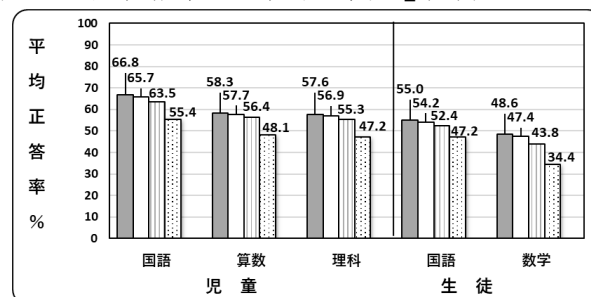
【児童生徒質問 15〔15〕】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



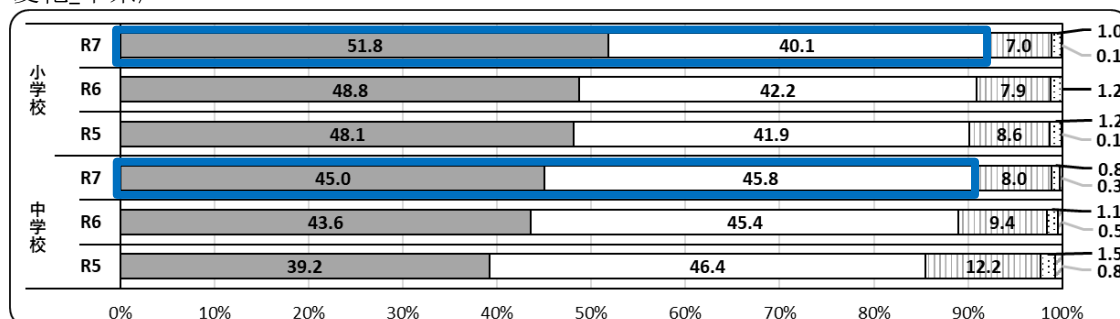
〈R 7 全国との比較〉



〈R 7 回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



家庭や地域との連携等

- 「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で 2.3 ポイント高く、中学校で同程度である。

【学校質問 7 4 [7 4]】

- 「コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で 14.0 ポイント、中学校で 15.2 ポイント低い。

【学校質問 7 5 [7 5]】

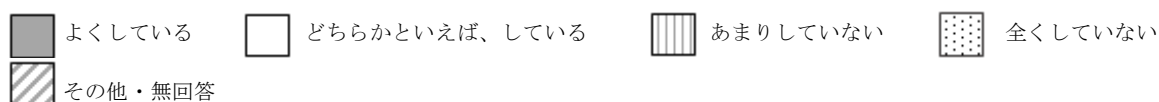
- 「地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で 4.5 ポイント中学校で 4.3 ポイント低い。

【学校質問 7 6 [7 6]】

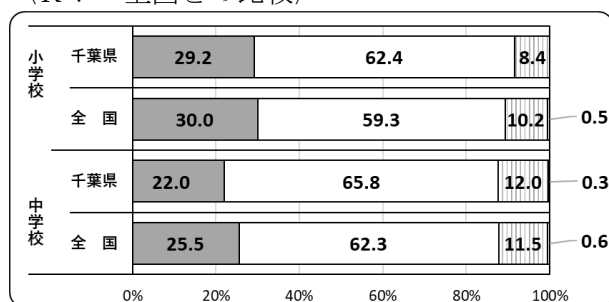
- 「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で 4.9 ポイント、中学校で 5.0 ポイント低い。

【学校質問 7 7 [7 7]】

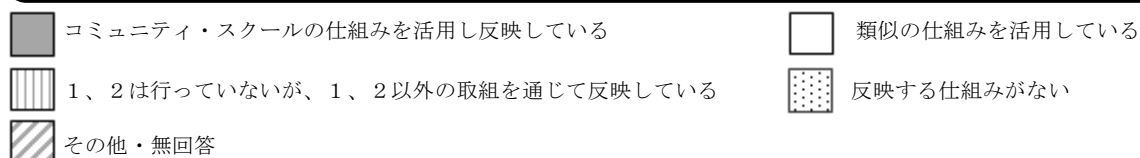
【学校質問 7 4 [7 4]】教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか 【新規】



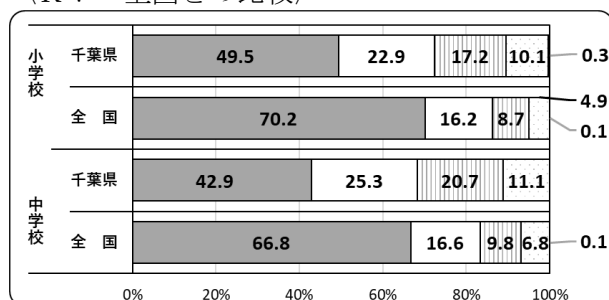
〈R 7 全国との比較〉



【学校質問 7 5 [7 5]】コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか 【新規】



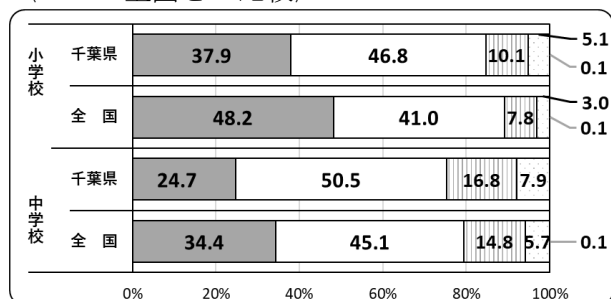
〈R 7 全国との比較〉



【学校質問 7 6 [7 6]】地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか 【新規】

☐ よく行った ☐ どちらかといえば、行った ☐ あまり行わなかった ☐ 全く行わなかった
☐ その他・無回答

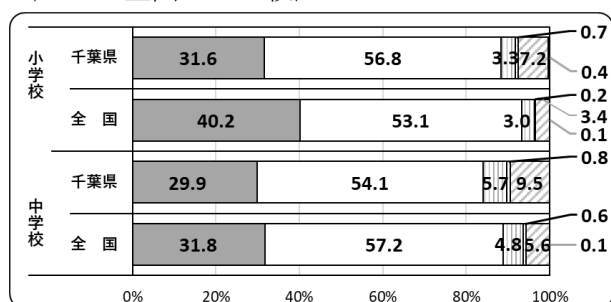
〈R 7 全国との比較〉



【学校質問 7 7 [7 7]】コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか

☐ そう思う ☐ どちらかといえば、そう思う ☐ どちらかといえば、そう思わない ☐ そう思わない
☐ 取組を行わなかった ☐ その他・無回答

〈R 7 全国との比較〉



【学校質問 7 8 [7 8]】コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか 【新規】

☐ そう思う ☐ どちらかといえば、そう思う ☐ どちらかといえば、そう思わない ☐ そう思わない
☐ 取組を行わなかった ☐ その他・無回答

〈R 7 全国との比較〉



特別な配慮が必要な児童生徒への指導

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕に対する授業において、前年度までに、障害のある児童〔生徒〕を念頭に置いた指導上の工夫を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校では0.6ポイント低く、中学校では0.6ポイント高い。

【学校質問69〔69〕】

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、発達障害と含む障害のある児童〔生徒〕に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、人的支援の配慮を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で6.3ポイント、中学校で8.3ポイント低い。

【学校質問70-1〔70-1〕】

- 「調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、発達障害と含む障害のある児童〔生徒〕に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、情報の取得、利用及び意思疎通への配慮を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で0.6ポイント、中学校で1.4ポイント高い。

【学校質問70-2〔70-2〕】

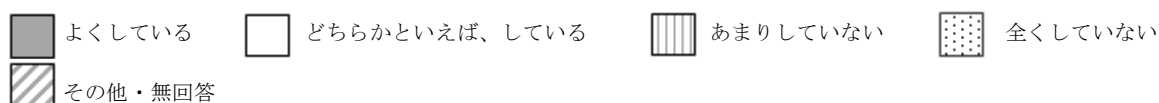
- 「調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、発達障害と含む障害のある児童〔生徒〕に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、ルール・慣行の柔軟な変更を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で1.3ポイント、中学校で1.2ポイント高い。

【学校質問70-3〔70-3〕】

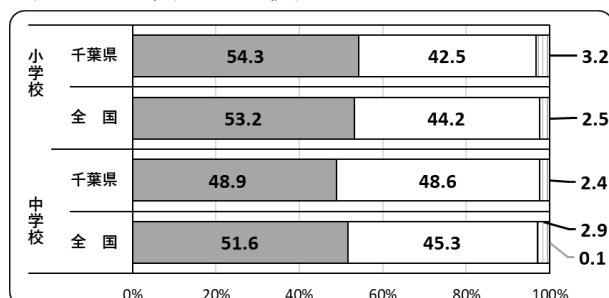
- 「調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、日本語指導が必要な児童に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で15.0ポイント、中学校で14.0ポイント高い。

【学校質問71〔71〕】

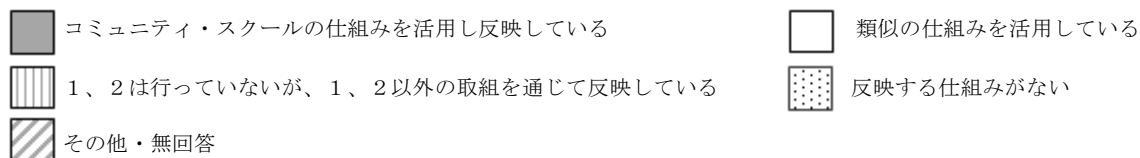
【学校質問69〔69〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対する授業において、前年度までに、障害のある児童〔生徒〕を念頭に置いた指導上の工夫を行いましたか 【新規】



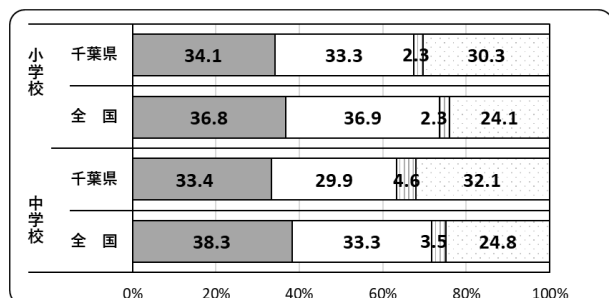
〈R7 全国との比較〉



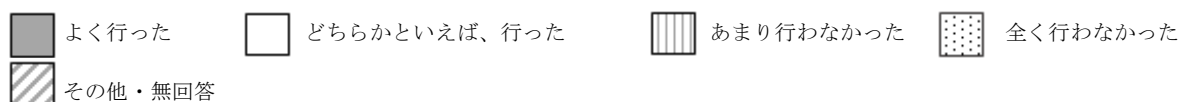
【学校質問 70-1〔70-1〕】調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、発達障害と含む障害のある児童〔生徒〕に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、人的支援の配慮を行いましたか
【新規】



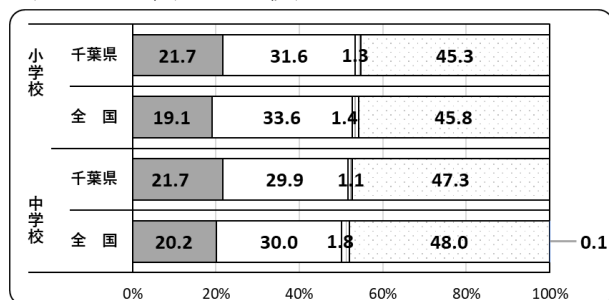
〈R 7 全国との比較〉



【学校質問 70-2〔70-2〕】調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、発達障害と含む障害のある児童〔生徒〕に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、情報の取得、利用及び意思疎通への配慮を行いましたか
【新規】



〈R 7 全国との比較〉



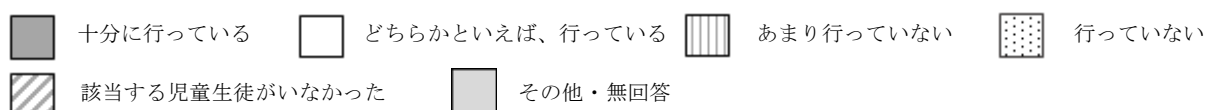
【学校質問 70-3〔70-3〕】調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、発達障害と含む障害のある児童〔生徒〕に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、ルール・慣行の柔軟な変更を行いましたか



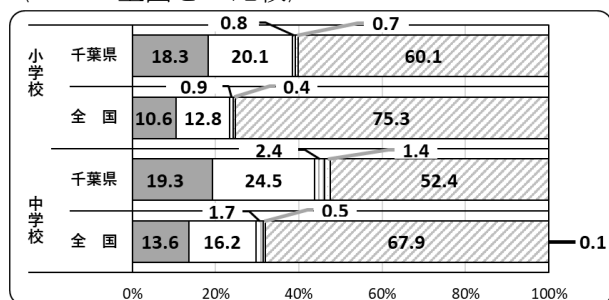
〈R 7 全国との比較〉



【学校質問 71〔71〕】調査対象学年の児童〔生徒〕のうち、日本語指導が必要な児童に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか 【新規】



〈R 7 全国との比較〉



調査結果の活用状況

- 「令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、中学校で1.3ポイント高い。

【学校質問83〔83〕】

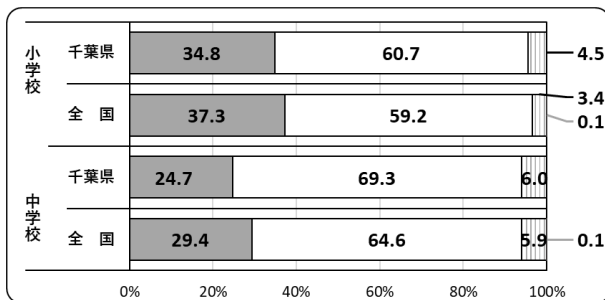
- 「令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で1.7ポイント高く、中学校で0.1ポイント低い。

【学校質問84〔84〕】

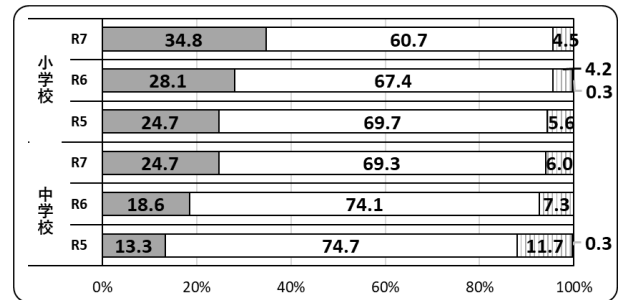
【学校質問83〔83〕】令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



〈R7 全国との比較〉



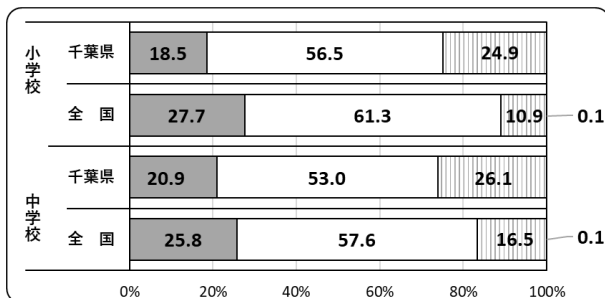
〈経年変化_本県〉



【学校質問84〔84〕】令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）



〈R7 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉

